

GE: 対象を総合的・全人的に捉える能力 (Generalism) 対象を全人的・個別的・総合的にみる姿勢や態度、Person-centered Careの考え方を基盤に、生活者として対象と家族を支援する。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力		
GE: 対象を総合的・全人的に捉える能力 (Generalism)	人としての対象の理解	人間の基本的欲求に関する概念	個人の健康と幸福へのコミットメントを示す。 人間の基本的欲求について説明できる。 人間は成長・成熟する存在であることを説明できる。		
		人間の生活行動の理解	生体リズム、活動と休息のバランス、運動習慣、睡眠パターンなど、健康にとっての活動と休息の意味を説明できる。 各生活行動を統合して対象者の生活を理解している。		
	対象アセスメントの視点と看護	対象の全体像	対象の個性、生活習慣、日課や生活史、および、生活の仕方などの生活の個別性を理解している。 対象のセルフケア、健康の理解とそれに必要なセルフケアや医療的管理など、セルフケアの主体性を理解している。 対象のコミュニケーションや周囲の人々との関係、意思決定能力などの自律性を理解している。 対象(状況に応じて対象者と家族)の経験や望み(意向)、強み(ストレングス)、ウェルネスを治療方法の選択や生活と関連付けて考えることができる。 対象(状況に応じて対象者と家族)の経験してきたことや望み(意向)を共有し、ニーズの把握につなげることができる。		
			生活とライフサイクル	人々の健康的な生活は、それぞれの価値観や社会的背景による多様性があることを説明できる。 人々のライフスタイルの背景にある文化を説明し、身体・心理・社会的な問題を統合して対象となる人々の全体像を描くことができる。 人々のライフサイクルによって生じる生活行動・コミュニケーション・情緒ならびに社会的役割の変化を説明できる。 人々のライフサイクルや健康段階に応じた変化をとらえ、包括的に健康状態をアセスメントできる。 人々のライフサイクルにおける発達課題と心理的危機の概要を説明できる。 人々を取り巻く社会環境をアセスメントし、生活上の問題を抽出できる。	
		健康と生活・セルフケア	人々の生活における活動と休息のバランスが心身の健康に与える影響について説明できる。 人々の生活に根付く生きがい、習慣、信仰活動と精神的安寧との関連について説明できる。 人々が生活の中で体得する学習行動の特徴を説明できる。 人々がもつセルフケア能力ならびにライフサイクルにおける生活行動の特徴を説明できる。 人々の行動変容支援に必要な基礎的理論を説明できる。 人々の生活における衣・食・住ならびに清潔が心身の健康に与える影響を説明できる。 人々の強み(ストレングス)を身体・心理・社会的な側面からアセスメントし、健康増進や自立の促進に向けた看護を説明できる。 人々や家族・関連する家族の生活や価値観を踏まえた看護支援を計画できる。 人々が所属する地域や文化的な背景の健康への関連を説明できる。		
			生活者としての対象を取り巻く地域の理解	家族・集団・地域・社会(文化や政治など)などを含む環境から受ける影響と、それらに対する個人の適応的な働きかけを理解している。 地域で生活する人の生活や価値観を理解している。 地域で生活する人々の近隣の人々との交流や地域の中での役割を理解している。 地域で生活する人々や、在宅療養者や家族が活用する社会資源と健康との関係を理解している。 日常生活動作に応じた介護と環境整備を理解している。 暮らしの場(在宅、施設など)や地域特性の違いによる看護のあり方と方法を理解している。 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族への支援計画案における看護の役割を理解している。	
				生活者としての対象への看護	バリアフリーなどの障害と社会環境に関連する概念を理解した行動をとることができる。 在宅療養者・家族の健康状態・症状、生活環境、活動状況、意向を総合的にアセスメントし、ケアチーム全体で共有する課題・ケアプランと看護課題・看護計画について、説明できる。
				多様な視点の統合	多様な場で展開される、人々の多様な生活の実際を理解している。 多様な文化背景をもつ人々の生活の支援に必要な能力を理解している。 ダイバーシティ(多様性)について理解している。
	地域を捉えたニーズの把握	地域を視野に入れた看護の構想	地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族のニーズに対応するために必要な新たなケアを創造する必要性を理解している。 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の強みや主体性を引き出し、セルフケア力の発揮を促す支援について理解している。 地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族の健康状態や特性、ケアニーズについて、人々の価値観、地域の特徴、文化を踏まえ、アセスメントできる。 地域に暮らす人や、在宅療養者の自己決定(意思決定)への支援について理解している。 地域や家族など、固有に受け継がれる生活習慣の多様性について理解している。 地域社会において他者への依存と自立のバランスが生活に及ぼす影響について理解している。 必要な療養やセルフケアについて、社会生活に求められる仕事と生活の観点から就労生活、家族生活との両立を支援する方法について理解している。		
			専門職としての行動規範・倫理にもとづいたコミュニケーション	ケアは相互作用であることを踏まえ、ケア提供者の人権を守る必要があること、および、その状況を理解している。 看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法を理解している(インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性、守秘義務、個人情報保護の方法など)。	

GE: 対象を総合的・全人的に捉える能力 (Generalism)	パートナーシップに基づく効果的なコミュニケーション	パートナーシップの必要性	対象者と看護職のパートナーシップが相互尊重の上に成り立ち、対等な協力者であるという原則を理解している。 対象者とパートナーシップをもって、援助を展開する必要性を理解している。 対象者とのパートナーシップの類型を理解し、対象者に合わせて適用する必要性を理解している。 対象者とのパートナーシップの成立する要素、プロセスとアウトカムを理解している。 本人や家族と相互に尊重できる関係を理解している。 対象者(グリーフの状態にある人、被災者、犯罪者、被害者など)をありのままに理解する。
		共感的な関係構築	共感性を涵養し、発揮する。 対象を含めた他者に思いやりをもって接する。 対象や家族の精神・身体・社会的苦痛に十分配慮できる。
	パーソン・センタード・ケア	パーソン・センタード・ケアの基本の理解	対象の価値観や意向、ニーズを明確にして理解することに重点を置き、その人の人生が有意義であることを目指した行為としてのPerson-centered Careを理解している。 対象を全人的にとらえ、尊敬・尊重し、個別のニーズに沿ってエンパワーするという原則を理解している。
		援助的関係性の構築	看護過程の全ての段階において、主体である対象の意思を尊重する。 看護の目的意識をもって対象者に関心を寄せることができる。 自らの強みを言語で表現できる。 自分の傾向がわかり、自分の課題を意識しながらコミュニケーションをとることができる。 自身の想像力の限界を認識したうえで、他者を理解することに努める。 相手の話を聞き、事実や自分の意見を相手にわかるように述べるができる。 多様な価値観を理解して、多職種と連携し、自己決定権を含む対象の権利を尊重する。 対象者の様々な特性や多様性に応じた関係を形成することができる。
	家族の理解と家族看護	家族に関する基本的な概念	家族の中での対象の役割を理解している。 対象の家族構成や関係性を把握する。 個人と家族の発達課題を理解している。 経済的側面が家族に与える影響を理解している。
		家族看護の基本	家族看護の目的、定義を説明できる。 家族の構造、機能、発達段階などをアセスメントし、家族の看護課題・対応策を説明できる。 個人・家族の双方への影響を踏まえたアプローチを理解している。 家系図を作成し、評価できる。 家族のライフサイクルに沿った機能を理解している。 家族のライフサイクル・家族構成員間関係・家族システムの視点で、対象・家族間の問題(虐待・ネグレクトなど)を指摘できる。 家族のそれぞれの構成員が家庭生活を営む上でどのように機能しているかを理解している。 家族の社会化機能を理解している。 家族の機能(セルフケア、対処)をアセスメントできる。
		家族看護の方策	家族の生活を把握し、家族員の健康状態との関連をアセスメントできる。 疾病が家族の生活や対象者との関係性にどのように影響するかを考えて支援できる。 家族をシステムとして説明し、家族介入の基本を説明できる。 対象の家族が抱える葛藤を説明できる。 家族カウンセリングの必要性をアセスメントし、基本的な技術を用いて実施できる。 対象の家族アセスメントに基づき、家族内のキーパーソンを特定できる。 家族ケアを展開できる。 対象を支える家族の状況をアセスメントし、支援できる。
		リプロダクティブヘルス/育成期家族	人々のリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する社会問題を理解し、対象者の社会生活を支える看護を説明できる。 生涯にわたる人の性の発達、それにかかわる身体構造と機能、性行動や反応を理解している。 周産期の母親と家族のメンタルヘルスを保ち、子どもの健康な心の発達を促す支援について説明できる。 子どもが生まれ、家族が形成される過程を理解している。 妊娠・出産・育児期の母児(子)とその家族の健康を保持増進するために必要な看護援助の方法を説明できる。 母子の健康生活について理解し、それを支える産後ケアや育児支援、母子保健のシステムを説明できる。 小児期の愛着形成や保育法・栄養法について説明できる。 夫婦関係が形成される過程について理解している。 子どもを産み育てる家族の機能を理解している。 妊娠・出産・育児期の母児(子)とその家族の健康を保持増進するために必要な看護援助方法を指導のもとに実施できる。 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的变化について理解し、アセスメントできる。 学童期、思春期と関連する課題(学業、友達などにかかわる課題)について理解している。



PR: プロフェッショナリズム (Professionalism) 対象を常に尊重し、法律や倫理的なガイドラインに依拠した看護実践を、自己責任を持って看護を遂行し、対象やチームメンバーに対する責任を果たす。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力	
PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)	看護職の専門性を支える法律・倫理の理解	看護職の法的位置づけ	看護師などの人材確保の促進に関する法律について理解し、看護職の法的義務を理解している。 保健師助産師看護師法など、看護職に関する法的義務を説明できる。 看護職と連携する主な職種(医師法、医療関係職に関する法律、福祉にかかわる法)の特徴を説明できる。 法が定める看護師の職権と義務を遵守する。	
		看護職の行動規範の遵守	日本看護協会「看護業務基準」を理解し、遵守する。 日本看護協会「看護職の倫理綱領」、国際看護師協会「看護師の倫理綱領」、および、それぞれの職場の倫理綱領などを理解し、遵守する。	
	看護職としての倫理的行動	生命に関する倫理の理解	生命倫理、医療倫理、臨床倫理などの関連領域の倫理の変遷を説明できる。 倫理的課題(個人・組織)を解決するための理論や倫理原則、思考方法を説明できる。	医療・看護における倫理に関する規範・原則や指針(倫理の原則、倫理指針、看護者の倫理綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ニュルンベルク綱領、リスボン宣言、世界人権宣言など)について説明できる。 医療現場に生じる倫理的な問題・ジレンマに気づき、検討できる。 看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史を理解している。 対象者への倫理的配慮、倫理的配慮を考慮した看護実践の必要性を理解している。 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。 医療や看護の現場における倫理的課題と調整方法について説明できる。
		医療における倫理の基本的理解	生と死にかかわる倫理的課題の概要を理解している。 遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮について理解している。 生存権などの健康に関する基本的人権と社会保障(社会保険、社会福祉、公的扶助)の意義と概要を理解している。	人の生命に深くかかわる看護師に相応しい教養を身につける。 多様な個人の違い、多様なコミュニティや集団を尊重する態度、行動できる。 対象の権利擁護に関する問題提起や相談ができる。 看護活動の場における倫理的課題について、倫理学の考え方に依拠し、分析したうえで自身の意見を述べるができる。 デジタル情報や科学技術の活用における社会的格差が医療や福祉にもたらす影響や倫理的課題に気づき、分析したうえで自分の意見を述べるができる。
		医療における倫理的課題の理解	自分の責任と能力の範囲内で実践する看護の根拠として、基本的人権を説明できる。 個人情報保護や守秘義務に関する法規について理解し、説明できる。 尊厳ある死後のケアの意義について説明、行動できる。	医療機関、自治体、福祉施設、事業所、企業など多様な場で看護を提供できることを理解している。 看護の意義や必要性、役割を第三者や社会に対してわかりやすく説明でき、説明責任を果たすことができる。 看護が発展してきた歴史を踏まえ、これからの看護の展望について自身の意見を述べられる。 近年の医療保健福祉施策の動向を分析したうえで、これからの看護やケアや社会保障のあり方について自身の意見を述べることができる。
		医療における倫理的行動	多様な教育歴、実践歴や文化背景を有する看護職や専門職とともに協働し、看護を実践できる。 社会全体を見渡し、その時代に求められる新たな看護実践やケアのしくみを創造する意欲がある。 地域の医療提供体制への貢献の形としてのアントレプレナーについて説明できる。	看護の専門家としてのアイデンティティと医療チームへの貢献を説明できる。 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的かつ責任ある行動ができる。 関連する法律、方針、規則を遵守する。 個人情報保護や守秘義務を遵守し、行動ができる。 人間の尊厳および人権の意味を理解し、尊重、擁護に向けて行動できる。 専門職連携を行い、相互学習、尊重、価値観の共有の風土を維持できる。 自らの行為の侵襲性を理解し、それに伴う責任について自覚している。 ACP、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えなどについて理解している。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、エビデンスに基づく正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる。 根拠に基づいた課題発見・課題対応を実践できる。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、可能な役割と責務を果たすことができる。
		看護における基本的人権擁護の理解	看護職という専門職集団を長期的な視点でとらえ、同僚や後進の育成に貢献できる。 社会から信頼される専門職集団の一員であるための態度・行動を考え、実践できる。 真摯に疑義に応じることができる。 ダイバーシティ(多様性)による不平等をなくすために行動できる。 対象や社会に対して誠実である行動とはどのようなものか考え、行動できる(利益相反など)。 個人、社会、職業に対する説明責任を果たすことができる。 他者を適切に理解するための妨げとなる自分や自集団の偏見とはどのようなものか考え、意識して行動できる。	
	看護職としての専門性に関する理解	医療における看護の目的の理解	看護の専門家としてのアイデンティティと医療チームへの貢献を説明できる。 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的かつ責任ある行動ができる。 関連する法律、方針、規則を遵守する。 個人情報保護や守秘義務を遵守し、行動ができる。 人間の尊厳および人権の意味を理解し、尊重、擁護に向けて行動できる。 専門職連携を行い、相互学習、尊重、価値観の共有の風土を維持できる。 自らの行為の侵襲性を理解し、それに伴う責任について自覚している。 ACP、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えなどについて理解している。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、エビデンスに基づく正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる。 根拠に基づいた課題発見・課題対応を実践できる。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、可能な役割と責務を果たすことができる。	
		看護における看護の目的の理解	看護の専門家としてのアイデンティティと医療チームへの貢献を説明できる。 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的かつ責任ある行動ができる。 関連する法律、方針、規則を遵守する。 個人情報保護や守秘義務を遵守し、行動ができる。 人間の尊厳および人権の意味を理解し、尊重、擁護に向けて行動できる。 専門職連携を行い、相互学習、尊重、価値観の共有の風土を維持できる。 自らの行為の侵襲性を理解し、それに伴う責任について自覚している。 ACP、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えなどについて理解している。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、エビデンスに基づく正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる。 根拠に基づいた課題発見・課題対応を実践できる。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、可能な役割と責務を果たすことができる。	
	看護職としての専門性に関する説明責任	専門職としての看護職の責務の行使	看護の専門家としてのアイデンティティと医療チームへの貢献を説明できる。 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的かつ責任ある行動ができる。 関連する法律、方針、規則を遵守する。 個人情報保護や守秘義務を遵守し、行動ができる。 人間の尊厳および人権の意味を理解し、尊重、擁護に向けて行動できる。 専門職連携を行い、相互学習、尊重、価値観の共有の風土を維持できる。 自らの行為の侵襲性を理解し、それに伴う責任について自覚している。 ACP、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えなどについて理解している。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、エビデンスに基づく正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる。 根拠に基づいた課題発見・課題対応を実践できる。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、可能な役割と責務を果たすことができる。	
		社会に対する専門職集団としての行動	看護の専門家としてのアイデンティティと医療チームへの貢献を説明できる。 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的かつ責任ある行動ができる。 関連する法律、方針、規則を遵守する。 個人情報保護や守秘義務を遵守し、行動ができる。 人間の尊厳および人権の意味を理解し、尊重、擁護に向けて行動できる。 専門職連携を行い、相互学習、尊重、価値観の共有の風土を維持できる。 自らの行為の侵襲性を理解し、それに伴う責任について自覚している。 ACP、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えなどについて理解している。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、エビデンスに基づく正確な知識、確実な技術、適切な態度を統合した看護を実践できる。 根拠に基づいた課題発見・課題対応を実践できる。 自分の責任と能力の範囲を自覚し、可能な役割と責務を果たすことができる。	

PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)	看護の特性と価値観を反映した職業的アイデンティティの形成と育成	自らの健康管理	自らの心身の健康管理ができる。 自身の体調管理を行うとともに、知識および技能を見極め、能力の範囲に応じて他者の支援を求めることができる。 一時的なストレスや負担に対処する自分なりの方法を確認し、実施できる。
		マインドフルネスや自身の強みを活かしたセルフマネジメント	精神的安寧を保つ工夫を実施し、セルフマネジメントできる。 マインドフルネス、セルフ・コンパッションについて理解し、セルフマネジメントに活かすことができる。 自らの強み(ストレングス)、レジリエンスを理解し、自身の心身をマネジメントできる。 自分のコミュニケーションの傾向や課題を理解し、行動できる。 自分自身の限界を適切に認識し、行動できる。
		専門職としての目的意識	看護援助の目的を明確にし、そのアウトカムを達成するために最善の方法と行動を選択できる。 重要性・必要性に応じて自分に必要な課題の優先順位を決定できる。 業務の負荷やストレスに向き合えるだけの、明確な目的意識を有している。
	看護職としての自己像の確立	自らの実践の省察	実施した看護の意味や課題を、看護の受け手を中心とする視点や倫理的観点で振り返ることができる。 実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己のあり方を省察し、看護の質の向上に向けた自己研鑽ができる。 同僚や上司と協働して、自らの学修経験を振り返ることができる。 学修・経験・実践をリフレクションし、自己の課題と改善策を明確にできる。 適切な他者へのフィードバックを実施、自身へのフィードバックを適切に受け止め、改善行動に活用できる。 実施した看護の振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。 自己の看護や看護成果を振り返り、自己の課題に取り組むことができる。
		人々の多様性理解を職業アイデンティティへ統合	ノーマライゼーションの支援について理解している。 ダイバーシティ(多様性)・エクイティ(公平性)・インクルージョン(包括性)を自らの職業的アイデンティティの中核として統合する。 ダイバーシティ(多様性)・エクイティ(公平性)・インクルージョン(包括性)、レイシズムについて理解し、意思決定と行動において適切な態度をとることができる。
	リーダーシップ能力の開発	リーダーシップの理解	リーダーシップの理論と原則を理解している。 リーダーとしての看護師のイメージを伝えることができる。 患者ケアや安全管理に関して、看護職がとるべきリーダーシップを自覚している。 看護チームにおけるリーダーシップの必要性とその役割を理解している。 医療チームや組織において、看護職のリーダーシップを必要とする状況を説明できる。 リーダーによる、理論・原則に導かれた意図的な変革とそのアウトカムについて理解している。 実践および政策課題におけるリーダーとしての看護の貢献の重要性を理解している。 差別や不公平の根絶に向けた、看護職によるリーダーシップの必要性を理解している。
		リーダーシップの発揮と基盤	看護専門職としての実践能力と一致した自己効力感をもつ。 カンファレンスやグループワークなどの場でリーダーシップ行動を示す。 曖昧さや不明確さが伴う状況では、リソースを活用する。 意見を言う場合は、一貫性を考慮し、信頼されるような方法で、積極的、的確で正確に伝える。
		リーダーシップ能力開発の方略	指導者や仲間からのフィードバックに基づいて、自身のリーダーシップ行動を省察し修正する。 自分自身の暗黙の偏見、その背景となっている環境や文化との関係を考え、自覚している。 個人のリーダーシップスタイルを知り、より多様な場面で活用できるよう課題設定し取り組むことができる。



LL: 生涯学習能力 (Lifelong Learning) 生涯学習の重要性を理解し、キャリア・ビジョンと目標を設定し、適切な学修方略に基づき学修を継続、評価・探求する。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力
LL: 生涯学習能力 (Lifelong Learning)	生涯学習を可能にする基盤	生涯学習の特徴と必要性の理解	生涯学習の必要性について自身に引き寄せて言語化できる。 これまでの大学での学習と生涯学習との異同について言語化できる。
		学習に対する態度(批判的思考・創造・柔軟・好奇心・活動)	環境や現状に対して批判的な視点、何事にも疑問を持つことができる。 新たなものを創り出す意欲があり、行動できる。 新しい視点を受け入れ、新しいアイデアを評価し、新しいスキルを学ぶことに興味を持てる。 学習を楽しむ、心をアクティブに保つことができる。 自信(学習をやり遂げることに自信がある)を持つことができる。 忍耐力(学習をやり遂げるための忍耐力や粘り強さがある)を持つことができる。 勤勉さ(学習をやり遂げるための勤勉さと緻密さがある)を持つことができる。
	生涯学習の内容と方略	省察的な方略	患者に深くかかわったことを学習のきっかけとして活かすことができる。 実践で経験したことを省察できる。 省察を通じて、学習につなげることができる。
		拡張学習的な方略	積極的に学習できる場に行くことができる。 新しい視点を得るために新しい世界や考え方を求めることができる。 研究者のような学習に積極的にかかわることができる。
		モチベーションを向上させる方略	学習する時は、自分が集中しやすい状況や時間を選ぶことができる。 自身の方法で勉強へのやる気をおこすことができる。
		情報探索に対する方略	効果的に文献の検索・取得できる。 情報を実践に役立つ形で整理し、理解している。 自己学習や協同学習に適切なICT媒体(eラーニング、モバイル技術など)を活用できる。 様々な情報源を積極的に探すことができる。 知識を定期的に確認することができる。
		協働学習方略	仲間と協力して学習できる。 学習についてアドバイスや励ましをくれる人を見つけることができる。 情報は仲間と共有し、ブラッシュアップできる。
		学修方略の選択	自身の得意な学び方を認識、学修を継続できる。 自身の不得意な学び方を認識、挑戦し、学修を拡張できる。
	自己研鑽の継続と探求	ビジョンや目標の設定	自身の人生やキャリアのビジョンを定期的に確認し、関連する生涯学習を探求できる。 疑問を認知して学習に移行、学習に対する目標が設定できる。 キャリアオーナーシップ、キャリアアンカーの考え方を理解し自らの生涯学習について考え、生涯にわたって研鑽し続ける姿勢を有している。 自身や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画する。
		自己教育力	自身の強みについて理解し、それらを活用し、学習に取り組める。 適切な助言・フィードバックなどを通して主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。 自身の成長を支える実践モデルの存在の重要性を理解し、それを特定しようとする姿勢をもつ。 自己教育力を高める方法について理解し、個々が実施可能な方法を検討し、実践できる。 目的を達成するために、自らの持てる資質を管理し、適切に運用する力を身につける。
	看護職としての自己研鑽の継続	基礎教育と継続教育の理解	看護基礎教育におけるDP/CP/AP、コンピテンシー基盤型教育とカリキュラムについて理解している。 看護職の免許取得と教育制度について説明できる。 看護基礎教育と高等教育と看護継続教育に関連する制度や法規を理解している。 看護基礎教育の歴史的変遷について説明できる。 看護学教育(基礎教育・継続教育)に関する目標と評価と学修方略を理解し、取り組める。 期待される看護実践能力を理解し、自身の看護実践能力を自己評価し、必要な学修ができる。 自身の学修成果が看護実践能力・看護成果、看護・医療の質、対象のQOLにつながることを理解している。 専門職として現代社会に求められる看護実践能力をとらえ、常に熟達を目指し探究しようとする姿勢をもつ。
	看護職としての自己研鑽の継続と探求	プロフェッショナルとして自己研鑽する姿勢	専門職として生涯にわたり学習し続け成長していくために、自己を評価し管理していく重要性について説明できる。 多様な生涯学習機会の獲得方法(実践の振り返り、自己学習、職場における継続教育、学術学会や専門職団体による各種研修、大学院、共同研究など)を把握し、将来的なキャリアパス・キャリア開発への活用を説明できる。 国際社会と地域社会の一員という自覚をもち、その発展に貢献できる。 変動の激しい現代社会・地域社会について、専門的知識に基づいて論理的に考え、総合的に判断できる。 看護学分野の成果に基づき、広い視野から探求できる。 生涯学習のための政策や施策を理解し、自身の学修に活用できる。 専門職連携により他職種・同職種・同僚と協働して、共に学び、自らの学修経験を計画・実施・評価・改善できる。 自身の職業観を涵養しながら、主体的にキャリアを構築していくことができる。

SO:地域社会における健康支援(Healthcare in Society) 地域社会およびケアシステムと人々の健康・暮らしの関係性を理解し、看護を展開する

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力
SO:地域社会における健康支援 (Healthcare in Society)	地域社会と健康	暮らし(生活)と健康	<p>地域や家族など、固有に受け継がれる生活習慣の多様性について理解している。</p> <p>人々が暮らす地域の基本的理解と地域の特性が健康や生活に及ぼす影響を説明できる。</p> <p>個や集団に及ぼす文化・慣習による影響(コミュニケーションのあり方など)を理解している。</p> <p>様々なライフサイクル、健康レベルにある人々への住み慣れた地域での健康支援の必要性について説明できる。</p> <p>生活の場としての地域・社会の意味、暮らしの場(自宅、施設など)や地域の特性について説明できる。</p> <p>地域社会の文化、慣習が生活に及ぼす影響について説明できる。</p>
		環境と健康	<p>個人特性および地域特性に対応した健康的な環境づくりについて説明できる。</p> <p>地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造など、地域の特性をとらえる方法について説明できる。</p> <p>健康を支援するために環境に働きかけていく必要性について説明できる。</p> <p>自然環境、社会環境、地球環境問題と人間の健康の関係について説明できる。</p> <p>生活環境の安全性を査定し、危機を回避する必要性や方法を理解できる。</p>
		健康の社会的決定要因	<p>家庭・学校・職場などにおけるメンタルヘルス向上のための支援について説明できる。</p> <p>健康障害と相対リスクについて説明できる。</p> <p>地域の健康格差を理解し、医療へのアクセス障害などのヘルスケアシステム上の課題を説明できる。</p> <p>医療の継続性(時間・情報・関係など)がもたらす影響の概要を説明できる。</p> <p>医療資源を公平に分配するとはどういうことか考え、自らの意見を述べるができる。</p> <p>健康の社会的決定要因の定義や概念を説明できる。</p> <p>対象の社会的背景(経済的・制度的側面など)が病いに及ぼす影響を理解している。</p> <p>ヘルスプロモーションの理念に基づき、健康の社会的決定要因をコントロールし、改善する方法を理解している。</p> <p>個人的、社会的、経済的、環境的要因が健康に与える影響を理解し、健康の決定要因をアセスメントする必要性を理解している。</p> <p>健康の社会的決定要因は健康、機能、生活の質のアウトカムやリスクに影響することを理解している。</p>
		ヘルスプロモーションの概念	<p>公衆衛生の概念を理解している。</p> <p>地域の人々の健康を改善し、促進するための支援や対応策を説明できる。</p> <p>健康づくりおよび疾病対策に関する予防の段階とその戦略を理解している。</p> <p>ヘルスケアシステムにおける1次予防・2次予防・3次予防の意義と方法を説明できる。</p> <p>人々の健康と生活を支援するための理念(アドボカシー、ノーマライゼーション、プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション)と看護への適用について説明できる。</p> <p>健康づくりと疾病予防のためのポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの意義と方法を理解している。</p> <p>健康の概念や政策(プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、国民健康づくり運動)について理解している。</p>
		わが国の社会保障制度の成り立ちと変遷	<p>人々の生活と健康を支える保健・医療・福祉の内容を理解し、提供する職種の役割を説明できる。</p> <p>日本における健康政策の概要、少子化対策について説明できる。</p> <p>保健・医療・福祉における課題を考察できる(生活習慣病、母子保健、児童福祉、学校保健、成人保健、産業保健)。</p> <p>社会保険の種類(医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険)について説明できる。</p> <p>社会保障制度の変遷と特徴、社会保障制度の種類(社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療など)、機能と体系について説明できる。</p> <p>地域の保健・医療・福祉制度、健康について説明できる。</p>
		わが国の衛生行政のしくみ	<p>保健所、市町村保健センター、地方衛生研究所の役割を説明できる。</p> <p>人々の暮らしや健康を支える国や地方自治体など、行政機関の特徴について説明できる。</p> <p>看護職に関する法制度は時代のニーズに応じて新設・改正されることが説明できる。</p> <p>看護の動向とそれにかかわる制度や法規(特定行為、訪問看護、資格認定制度など)について説明できる。</p>
	人々の健康と暮らしを支える法制度と看護活動の基本	地域保健に関連する法制度と看護活動	行政機関における保健活動について説明できる。
			健康増進法、栄養、身体活動、休養などの健康増進施策の意義と概要を説明できる。
			保健所、保健センター、子育て世代包括支援センター、社会福祉協議会などの保健・福祉機関の機能と看護職の役割を説明できる。
			公衆衛生および医療の主要な関連法規(地域保健法、感染症法、健康増進法、学校保健安全法、労働安全衛生法・戸籍法)について説明できる。
			健康課題に関する政策と保健活動について説明できる。
			成育基本法、母子保健法、母体保護法、児童福祉法、児童虐待防止法など、母子保健施策の意義と概要を説明できる。
健康寿命を延ばすために働きかけを考えることができる。			
地域保健に関連する基本的な制度や法律を説明できる。			
特定の健康課題を解決するための看護援助として必要な支援方法・教育技術について説明できる。			
例)健康教育、患者教育、生活の場へのアウトリーチ、グループダイナミクスの活用など			
個人・家族・集団・地域の健康の保持増進、疾病予防の能力を高める援助方法について説明できる。			
個人や家族の生活を把握し、個人や家族の健康状態との関連をアセスメントできる。			



SO:地域社会における健康支援  
(Healthcare in Society)

人々の健康と暮らしを支える法制度と看護活動	子どもの健康に関連する法制度と看護活動	特別支援学校、学校保健などの教育機関における看護職の役割を説明できる。 学校保健における看護のあり方と方法について理解している。 学校保健安全法、学校感染症など、学校保健の意義と概要を理解している。	
	働く人の健康に関連する法制度と看護活動	産業保健の対象と目的について理解している。 産業保健における労働衛生の3管理など、産業保健の基本的な考え方を理解している。 労働災害および職業性疾病とのその対策を理解している。 人々が働く産業の場の特性について説明できる。 企業健康管理部門、健診・検診センターなどの産業保健分野の機関の機能と看護職の役割を説明できる。 産業保健・環境保健に関連する基本的な制度や法律を理解している。	
	福祉・介護に関連する法制度と看護活動	障害者・精神保健・精神障害者福祉の意義、関連制度・法律を理解している。 離島・へき地などの医療資源が限られた状況での医療・看護の提供体制および保健・福祉・介護の体制の概要を理解している。 回復期にある人が障害に応じた生活を送るために、活用できる社会資源について説明できる。 介護保険におけるケアマネジメントの仕組と役割を説明できる。 福祉や介護を必要とする人への居住系、訪問系、施設系サービスの対象とその特性について説明できる。 地域包括支援センターの位置づけ、目的、機能、事業内容を説明できる。 社会福祉法・生活保護法・生活困窮者自立支援法、児童福祉法、虐待防止法(高齢者、児童、障害者など)、難病法、精神保健福祉法、医療的ケア児法の概要とそれらを根拠とする社会資源を理解している。 介護保険制度の改正などによる施設介護や在宅介護の動向について、説明できる。 わが国の障害者支援制度、介護保険制度のしくみ、事業、サービス利用の手続き、給付について説明できる。	
	医療に関連する法制度と看護活動	地域の救急医療体制やかかりつけ医制度などについて理解している。 地域医療提供体制に関する諸課題を理解している。 地域医療構想に基づく包括的な地域医療体制や病床機能を概説できる。 地域連携クリティカルパスについて説明できる。 病院・診療所などでの外来医療・リハビリテーション、訪問看護事業所など地域医療機関の機能と看護職の役割を説明できる。 健康保険や後期高齢者医療制度など医療保険のしくみを理解している。 診療所における看護の役割を理解し、プライマリ・ケアにおける看護活動について説明できる。 急性期、回復期、慢性期の特性に応じた自宅・ホーム、医療機関、施設間の療養移行支援の必要性・しくみと方法の概要を理解している。 国民皆保険としての医療保険、介護保険、年金保険を含む社会保険の仕組みと問題点を理解している。 医療保険制度および診療報酬制度について説明できる。 多死の時代の中での死亡診断のあり方、看護師の役割を理解している。 地域社会の変化、保健・医療・福祉の動向を踏まえ、今後の看護職に求められる役割や責任について理解している。	
	地域の社会資源の活用と開発の理解	地域ケアに携わる関係者の役割を理解している。 安全なケアをチームとして組織的に提供する意義について説明できる。	
	地域包括ケアシステムの構築と理解	地域包括ケアの概念と地域共生社会	個人・集団・組織と連携して、地域ケア体制を構築する意義と方法を理解している。 自助・互助・共助・公助、地域共生社会の意義と内容について、説明できる。 地域包括ケアシステムの必要性と考え方、構成要素(医療、介護・障害福祉、相談、住まい、子育て/教育、就労、生活支援、介護予防)を理解している。
		地域の健康ニーズ	集団と地域のヘルスニーズを理解し、地域の人々の健康を改善・促進するための支援や対応策を理解している。 地域アセスメントには、既存資料の分析、地区視診、インタビュー、社会調査など多様な方法があることを理解している。 地域(都会・郊外・へき地・離島を含む)の偏在の実情とそれに応じた看護を理解している。 地域の特性や社会資源、健康指標をもとにして地域の健康課題を把握する方法について理解している。 地域の量的指標(人口構成など)や質的情報(地理的・歴史的・経済的・文化的背景)を収集し、地域の健康課題を説明できる。 環境の現状や課題、健康・生活、健康状態との関連についてアセスメントできる。 対象の居住する地域における各疾患の罹患率、有病率などの指標をアセスメントに活用することを理解している。 人口統計(人口静態、人口動態)、疾病構造、保健・医療・福祉に関する基本的統計や指標について説明できる。 平均寿命、健康寿命について説明できる。
	地域の社会資源の活用と開発の理解	地域に暮らす人や、在宅療養者とその家族のニーズに対応するために、必要な新たなケアを創造する必要性を理解している。 地域の人々の健康を改善し、促進するために必要な新たな社会資源を開発する必要性を理解している。 様々な慢性疾患において必要とされる支援の特徴を理解し、適切な人・機関につなげることができる。 慢性・不可逆的健康課題を有する対象と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について説明できる。 地域にあるケアに関する様々なインフォーマルな社会資源の発掘や可視化する必要性を理解している。 地域の様々な社会資源を列挙し、どのような利用者に活用できるかを理解している。 多様な社会資源、サービス、制度の実際を見ることで社会資源の意義を説明できる。 主な社会資源と人々の暮らしや健康との関連について説明できる。 健康課題を解決するために効果的な資源を考えることができる。 その地域でより健康に生活するために必要な社会資源やサービスをアセスメントできる。	



SO:地域社会における健康支援 (Healthcare in Society)	地域包括ケアシステムの構築と推進	地域包括ケアシステムの構築と推進の理解	<p>自主グループ、地域組織、ボランティアグループなどの活動の意義と活動支援の方法について理解している。</p> <p>地域住民や施設入居者に対して、疾病予防や生活・健康管理の小集団への健康教育、グループミーティング、アクティビティを行う意義と方法を理解している。</p> <p>地域の資源や様々なグループ、組織の活動について人々の暮らしと関連付けて理解している。</p> <p>地域包括ケアを推進する必要性を理解し、地域包括ケアの中の看護の役割と機能について説明できる。</p> <p>地域包括ケアシステムづくりの方法や地域ケア会議の機能を理解している。</p> <p>人々に必要な地域のケアシステムやネットワークについて、関連機関や多職種と連携・協働し、構築する必要性について説明できる。</p> <p>地域包括ケアにおける多機関・多職種連携・協働、方法について理解している。</p> <p>地域のケアチームの目的と機能およびネットワークの必要性を説明できる。</p> <p>地域包括ケアシステムを継続的に発展させる必要性や方法、ケアサービス提供機関などを理解している。</p> <p>保健医療福祉サービスの継続性を保証するためにチーム間の連携について説明できる。</p> <p>地域や組織におけるケア資源を把握し、各専門職の専門性や役割を踏まえ、連携・協働の方法を説明できる。</p>
	在宅における看護	在宅における看護の提供	<p>対象者・家族の希望、生活や医療のニーズ、介護体制、暮らしの特徴などを多角的にとらえた看護展開を説明できる。</p> <p>対象者・家族の強みを活かし、セルフケア能力の発揮を促す支援について説明できる。</p> <p>家族の介護負担に向けた支援について理解している。</p> <p>関係機関・職種との連携、社会資源の活用について説明できる。</p> <p>訪問するための準備やマナーを説明できる。</p>
		訪問看護の機能と役割	<p>訪問看護の導入から実施に至るプロセスや手続きについて説明できる。</p> <p>訪問看護ステーションや医療機関などからの訪問看護提供の動向、制度、しくみ・運営内容を説明できる。</p> <p>訪問看護の発展経緯と目的、必要性、機能、制度やしくみ、提供方法について説明できる。</p> <p>訪問看護事業所の管理、運営、業務内容、看護の役割を理解している。</p> <p>訪問看護事業の質保証や緊急時における事業継続計画(BCP)の必要性や方法の概要を理解している。</p>
	地域における健康危機と看護	健康危機管理の概念と法制度	<p>日本における防災や災害医療に関する施策(防災計画・防災学術連携体など)や現状・課題を理解している。</p> <p>健康危機管理(感染症、放射線事故、災害などの有事)に関連する基本的な制度や法律を理解している。</p> <p>災害の種類や災害サイクル、防災業務計画、地域防災計画、支援体制について理解している。</p>
		地域における健康危機と予防対策	<p>災害・感染症を含めて地域における健康危機管理およびその対策を理解している。</p> <p>災害の発生に備え、予測的な視点をもった防災行動やその対策を理解し、安全に行動できる支援を指導のもとに実施できる。</p> <p>地域で流行する感染症を把握し、予防措置の必要性や方法を説明できる。</p> <p>災害関連死の発生要因を理解し、予防対策を理解している。</p>
		地域における健康危機と看護活動	<p>災害時要配慮者・避難行動要支援者への対応について理解している。</p> <p>地域特性・災害が地域に及ぼす影響を理解している。</p> <p>被災者、救護者のストレスと心のケアについて理解している。</p> <p>災害(新興感染症・再興感染症パンデミック・放射線災害を含む)や被災状況が健康・生活に与える影響、災害時のストレスと健康障害との関連を理解している。</p> <p>自然災害(新興感染症・再興感染症を含む)が起きた際に必要とされる看護師の役割を理解している。</p> <p>災害時の医療救護活動のフェーズ(超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、静穏期)と各期の看護について理解している。</p> <p>災害時における要配慮者、避難行動要支援者への看護について理解している。</p> <p>地域防災・減災活動上の被災地域の人々や多職種連携の必要性や方法を理解している。</p> <p>災害時の医療と看護(災害拠点病院、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team&lt;DMAT&gt;)、災害派遣精神医療チーム(Disaster Psychiatric Assistance Team&lt;DPAT&gt;)、日本医師会災害医療チーム(Japan Medical Association Team&lt;JMAT&gt;)、災害時健康危機管理支援チーム(Disaster Health Emergency Assistance Team&lt;DHEAT&gt;)、災害援助対応チーム(Disaster Acute Rehabilitation Team&lt;DART&gt;)、日本栄養士会災害支援チーム(The Japan Dietetic Association-Disaster Assistance Team&lt;JDA-DAT&gt;))と看護の役割を理解している。</p> <p>医療・ケア・看護提供機関として、不測の健康危機(自然災害、人為災害、パンデミック、通信・ライフライン障害に備えて事業継続計画(BCP)を作成する意義と機能を理解している。</p> <p>災害看護活動の場(救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設など)における食事、排泄、睡眠、清潔、環境といった生活への援助、身体的・精神的健康管理について理解している。</p>
	国際社会における看護	国際社会と健康	<p>国際保健・医療協力(国際連合(United Nations&lt;UN&gt;)、世界保健機関(World Health Organization&lt;WHO&gt;)、国際協力機構(Japan International Cooperation Agency&lt;JICA&gt;)、政府開発援助(Official Development Assistance&lt;ODA&gt;)、非政府組織(Non-Governmental Organization&lt;NGO&gt;))について概説できる。</p> <p>ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの意義を理解し、世界各国の医療制度が抱える問題を例示できる。</p> <p>国際的に取り組む必要のある医療・健康課題について、歴史・社会的背景を踏まえて、概要を理解している。</p> <p>保健関連の国連開発目標や国際機関・国際協力にかかわる組織・団体について概要を理解している。</p> <p>国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解している。</p> <p>わが国の人口構成、世帯状況などの動向や将来の予測について国際比較のうえ、説明できる。</p> <p>わが国の平均寿命や乳児死亡率など健康水準に関する指標の動向について国際比較のうえ、説明できる。</p> <p>わが国の医療提供体制や介護提供体制について国際比較のうえ、説明できる。</p>
		グローバリゼーションと看護	<p>諸外国の看護・保健ニーズについて理解し、諸外国における支援のあり方や国際協力について理解している。</p> <p>日本の保健・医療・福祉の特徴を理解し、国際社会における看護の役割と貢献について考えることができる。</p> <p>在日外国人の言語や在留資格などの社会的課題が医療行為に及ぼす影響を理解している。</p>



QS: ケアの質と安全の管理 (Quality and Safety) ケアの質の維持・向上を目指し、ケア提供に対する説明責任を果たし、対象者と医療提供者の危険リスクを最小限とし行動する。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力
QS: ケアの質と安全の管理 (Quality and Safety)	ケアの質の維持・向上	ケアの質管理の基本	良質なケアの提供に向けて、ケアの質を管理し保証していくことの必要性を説明できる。
			ケアの提供に質向上の原則を適用する。
			ケアの質を管理し保証していくための具体的な方法を説明できる。
		ケアの質管理の方法	ケアの質を管理し保証していくための活動に参画できる。
			ケアの費用対効果を考慮し、効果的な方法を説明できる。
			ケアの質と安全の管理の関連を説明できる。
	ケア提供に対する説明責任	看護の安全性確保	看護の質の管理および改善への取り組みについて説明できる。
			看護の質を評価する必要性とその方法について説明できる。
			看護活動をPDCAサイクル(plan-do-check-act cycle)を用いて改善する意義と方法を説明できる。
	対象安全促進のための知識	ケア提供についての説明	医療の質の可視化・評価手段としてのクリニカルパスや診断群分類(DPC)について説明できる。
			看護における安全性の確保のため、能力向上の必要性を説明できる。
			看護における安全性を向上させるための活動に参画できる。
		有害事象の予防策の理解と実施	ケア提供に対する説明責任を果たすことができる。
			安全配慮義務違反や契約違反について説明できる。
			看護記録の法的根拠
	対象安全促進のための知識と行動	リスクの予測と説明	看護記録の法的根拠を理解し、法令に遵守した看護記録の要素を説明できる。
			おこりうるリスクを事前に把握し、インフォームドコンセントの場で適切に伝える。
			転倒・転落、褥瘡などの有害事象の予防策を計画し、実施できる。
		磁場の発生する検査の特徴と注意点の理解	転倒・転落予防に多職種で取り組むことの効果を説明でき、組織的取組を説明できる。
			医療関連機器圧迫創傷(Medical Device Related Pressure Ulcer:MDRPU)、褥瘡の予防の多職種による組織的取組を説明できる。
			放射線被ばく予防と適切な対応・説明
対象安全促進のための知識と行動		リスクマネジメントの基本的理解と安全のための行動	磁気共鳴画像で用いられている磁場や電磁波の特徴を理解し、人体や植え込みデバイスの発熱などの現象について説明できる。
			医療被ばく・職業被ばくも含めた放射線被ばく低減の3原則と安全管理を理解し、放射線を用いる画像検査と処置(エックス線撮影、CT、核医学、血管造影およびインターベンショナルラジオロジー、エックス線透視など)の被ばく軽減を実行できる。
			安全な療養環境について説明できる。
		リスクアセスメントと安全管理行動	医療におけるリスクについて説明できる。
			医療事故の予防と発生時対応、発生後の分析と評価について説明できる。
			リスクマネジメント、有害事象(転倒・転落などの事故、褥瘡、与薬エラーなど)の予防方法について説明できる。
	薬害・医療被害の再発防止の制度理解と価値観	医療事故防止対策について理解し、そのために必要な行動ができる。	
		看護における安全性の確保のための対応策を実施できる。	
		医療の安全性に関する情報(薬剤などの副作用、薬害、転倒・転落、医療過誤、やっちはいけないこと、優れた取組事例など)を共有し、事後に役立てるための分析ができる。	
	在宅における安全の確保	組織における医療安全対策など、医療機関の取組と看護の活動・役割について説明できる。	
		対象安全のための管理体制と各々の役割(リスクマネージャー、医療安全管理委員会など)の概要を説明できる。	
		プライバシー保護と医療安全リスクの背反性を理解し、適切な対策をとることができる。	
薬品管理に関する基本的な知識	医療の不確実性を理解したうえで適切な行動や態度をとることができる。		
	個人および組織における対象安全管理の重要性を理解し、行動できる。		
	根拠に基づいてリスクを分析し、安全性を判断できる。		
インシデント・有害事象発生時の対応	医療事故調査制度について説明できる。		
	薬物の副作用に対処するための制度(医薬品副作用被害救済制度など)について説明できる。		
	薬害や医療被害の歴史や事実経過、当事者の視点・経験を理解し、再発予防の価値観を身につける。		
安全の文化への貢献	安全を図る技術(医療事故、転倒・転落、装着物抜去、誤薬、誤嚥、針刺し、放射線暴露、薬剤暴露)などを修得できる。		
	対象者・家族などの意向を把握し、治療方法、サービス利用、療養や看取りの場などケアや医療に関する適切な選択について相談に乗る方法を説明できる。		
	訪問看護での医療処置・生活介助・情報共有・交通事故の際におこるインシデント・アクシデントの特徴、予防と対応の方法を説明できる。		
インシデント・有害事象発生時の対応	医薬品・医療機器の安全な管理体制や安全な医療環境を形成する意義について説明できる。		
	薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる。		
	インシデント(ヒヤリ・ハット)事象に遭遇した場合は、迅速に報告・連絡・相談ができる。		
安全の文化への貢献	インシデント(ヒヤリ・ハット)・アクシデント事象に遭遇した場合は、その原因と再発防止策を説明できる。		
	インシデント(ヒヤリ・ハット)・アクシデントを報告する意義を理解し、遭遇時に報告できる。		
	リスクカンファレンス、M&MカンファレンスやCPCに参加して自身の意見を述べるることができる。		
安全の文化への貢献	対象安全の文化に貢献する。		
	事業者と職場環境の安全文化に貢献する。		
	ヘルシーワークプレイスを理解し、良好な職場環境構築に必要な要因を説明できる。		
安全の文化への貢献	自身を含む医療者の労働環境の改善の必要性を理解し、実際の医療現場において改善に努めることができる。		

QS: ケアの質と安全の管理 (Quality and Safety)	対象安全促進のための感染対策	医療関連感染の理解と予防	<p>医療関連感染の定義、院内感染症を説明できる。</p> <p>代表的な医療関連感染の原因微生物、リスク因子、感染経路・侵入門戸、病態生理を説明できる。</p> <p>新興感染症・再興感染症などについてその感染経路を理解し、必要な感染対策を説明できる。</p> <p>医療関連感染サーベイランスについて説明できる。</p> <p>医療関連感染症に関連したシステム(院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、感染制御チーム、感染対策マニュアルなど)の役割や意義を理解して参加する。</p> <p>標準予防策(スタンダード・プリコーション)、感染経路別予防策(飛沫感染予防策、接触感染予防策、空気感染予防策など)が必要となる病原微生物、対象から医療従事者への病原微生物曝露を防ぐための個人防護具、予防接種など、医療従事者の体液曝露後の感染予防策について説明できる。</p>
		医療関連感染の予防行動	<p>感染防止について説明でき、感染防止対策を適切に実施できる。</p> <p>感染防止対策について理解し、必要な行動ができる。</p> <p>針刺し切創、体液暴露などに遭遇した際、適切に対処できる。</p>
		ワクチン接種による感染予防	<p>微生物感染症に対するワクチンの原理、種類とそれに対する問題点について説明できる。</p> <p>自然免疫と獲得免疫、ワクチン接種により予防可能な疾患について説明できる。</p> <p>ワクチン接種による感染予防について説明できる。</p> <p>ワクチン接種に伴う有害事象(副反応)について説明できる。</p> <p>ワクチン接種に関する対象の自己決定を阻害する問題点を理解している。</p>
		職業感染対策の理解	<p>職業感染対策(ワクチン接種、感染症、針刺し・切創・体液曝露、結核曝露など)について説明できる。</p> <p>職業感染(感染症、針刺し・切創・皮膚粘膜曝露)とその対応について説明できる。</p> <p>職業感染(感染症、針刺し・切創・皮膚粘膜曝露)対策を実施できる。</p>
		感染症予防行動	<p>問診などを通して、推察される感染症を判別するための観察ができ、必要な検査について説明できる。</p> <p>問診などを通して、感染症を推察し、適切な隔離策をとれる。</p> <p>市中感染の状況を情報把握し、自施設内での感染伝播のリスクを想定し、持込防御策をとることができる。</p>
		災害等緊急事態発生時の医療者・医療機関の役割	<p>災害時や公衆衛生上の緊急事態において、人々の健康を守るための準備を進める。</p> <p>被災時の医療機関の状況が説明できる。</p> <p>災害時要配慮者へ備えの必要性を説明できる。</p>
	災害等の対応	災害等の緊急事態発生時の対応	<p>災害時に特有の健康障害(クラッシュ・DVTなど)を説明できる。</p> <p>災害時に連携すべき他職種(非医療従事者、自衛隊、消防、警察など)を説明できる。</p> <p>災害時の医療の考え(CSCATTTやトリアージなど)を説明できる。</p> <p>災害の情報の取り方(防災無線)を説明できる。</p> <p>二次災害の発生と危険について説明できる。</p> <p>マスギャザリングとNBC災害、原子力災害を説明できる。</p>



IP: 多職種連携能力 (Interprofessional Collaboration) 医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々と互いに学びあうことにより役割を相互に理解し、患者・家族・地域の課題を共有し、解決に向け協働することができる。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力
IP: 多職種連携能力 (Interprofessional Collaboration)	多職種連携の基盤	多職種連携の目的と成果	多職種連携協働の目的と成果を説明できる。 関係職種や住民との協働の意義、目的と方法について説明できる。 保健医療福祉サービスの継続性を保障するための、多職種連携協働の方法を説明できる。
		多様な職種により構成されるコミュニティへの所属意識	かかわる多様な職種と専門職連携の価値を共有できる。
		多様な職種による患者利用者中心の連携実践への意欲と自信	対象・利用者・家族・地域のwellbeingの向上に向け共に活動する意欲と自信をもつことができる。 多職種および他の学生と共に学び、成長できる。 多職種連携協働において、かかわるメンバーはチームワークに対して等しく責任をもち、協働できるという信念をもつ。
	チームにおけるコミュニケーション	自分の意見の明確な説明	自らの意見を他の職種および学生に根拠とともに伝えることができる。 チームに必要な情報を提供する。
		チームメンバーの意見の傾聴	チームメンバーの意見を傾聴することができる。 多職種および他の学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。
	専門職の役割と責任の理解	看護職の役割と責任の説明	看護職の価値、責任役割、知識、保有する知識を他の職種に説明できる。 看護職が活躍する多様な場とそこでの役割を説明できる。 対象者に自らの役割や専門性を説明できる。
		他の職種の役割と責任の理解	他職の価値、責任役割、知識、保有する知識を理解し、その理解を当該職に確認することができる。
	チームワーク	チームワークの理解	患者中心の連携協働を行うために適切なチームを作ることができる。 チームビルディングの方法を説明できる。 チームワークが何によって困難になるかを理解し、よりよいチームワークに貢献できる。 チームの目標、役割と責任を明確に説明できる。 チームメンバーの相互補完性と、実践の統合を目指して活動できる。 チームの一員として、チームで結果を引き受けることを覚悟する。
		チームメンバー・チームリーダーとしての行動	チームのタスクに応じたリーダーシップ・メンバーシップを発揮できる。 チームの中での自分の立ち位置、貢献、役割を説明できる。
		連携協働の課題の明確化	自分がかかわる連携協働の課題を明確にできる。
	対象を中心とした連携協働	対象志向での連携協働	常に患者志向で多職種連携協働を行うことができる。 対象、家族、介護者、コミュニティをパートナーとしてケアマネジメントができる。
		対象・多職種と連携したケアマネジメント	対象・多職種と連携協働し職種役割を発揮しつつより良いケアマネジメントに向けた活動ができる。 多職種・対象者と協働してケアプランをつくり、評価や見直しをする方法について説明できる。 様々な人々との協働を通して、健康上の諸課題への対応に参画できる。 ICFなど共通言語を活用して事例の課題を共有できる。 総合サービス計画の前提として、事例を多角的に理解している。 現実的・実践的な総合サービス計画が立案できる。 総合サービス計画立案に何らかの形で参画できる。 対象・利用者中心の保健医療サービスを提供するために、実際の医療現場において、担当ケースに保健医療チームで協働して実践するケア計画が立案できる。
	連携協働の生涯学習	学習とリフレクション	チームの中での関係性を的確に振り返る。 チームメンバー(多職種および学生)とともに学び成長できる。 専門職連携教育で得た知識を実践に活用できる。
	倫理的態度	自身の見方への気づきと葛藤への対処	自分自身や他者がもつ他の専門職へのステレオタイプな見方に気づくことができる。 対立を回避することなく向き合い、解決に向かう態度を持ち続けることができる。
		相互尊重の原則	他の職種および学生の意見を尊重し、信頼をつくることができる。 同僚の見解は等しく有効で重要であることを認めることができる。

RE: 科学的探究能力 (Research) 看護学の学術的活動を通して、より良い看護を探究し看護実践の質向上に貢献するとともに、看護学の発展に寄与する

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力	
RE: 科学的探究能力 (Research)	学術活動の倫理的行動	倫理規定の遵守の基本	捏造、改ざん、盗用などを含め研究不正の類型を説明することができ、研究不正を行わない。 研究計画の素案を作ることができる。	
	学術的倫理の理解	倫理規定の遵守	研究者倫理(対象者の人権擁護と研究不正の回避に必要な知識を含む)を理解している。 人を対象とした研究(治験、特定臨床研究を含む)に関するルールの概要を理解し、遵守する。 看護研究における倫理の必要性について説明できる。 看護研究における倫理的配慮の具体的な例とその理由を理解している。	
		学術活動における倫理的行動	支援を受けながら、看護研究における倫理的配慮に関する計画を立案できる。 学術活動の倫理的行動を推進する。 学術活動の倫理的行動を推進する必要性を理解している。	
	学術活動の倫理的行動	学術的探求	何事にも知的好奇心をもって取り組むことができる。 必要な科目、および、各自の興味・関心に応じたプログラムを選択し、参加できる。 自身の関心事について情報収集、文献を検索、セミナーや研修に参加できる。 自身の関心を問いにすることができる。 自身の関心事について研究を計画・実施できる。 他の学問分野(工学、情報学、経済学、経営学など)と協働して、新たな看護実践や社会資源を開発する意義を理解している。	
	看護学の探求の基礎	研究の基礎	発表の場に応じて読者・聴衆にわかりやすく研究内容をプレゼンテーションできる。 学術的な研究に参加し、理論的な文章を作成できる。 自然科学・人文社会科学の科学的探究の方法を理解し、実施できる。 文献研究、事例研究、実験・調査研究などの研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。 課題設定、データ収集、分析手法選択、解決施策に唯一の正解はなく、様々なアプローチが可能であることを理解している。 研究成果には適用可能範囲や限界があることを理解したうえで、支援を受けながら、成果を理解している。 研究計画・実施するうえでの注意点を理解し研究計画を立案できる。 因果推論にもとづく統計モデルをつくることができる。 データの分布(欠損値を含む)について説明できる。 相関分析、平均値と割合の検定などを実施できる。 看護研究の基本的な研究手法を修得する。 多変量解析の意義を理解している。	
			学術成果の発信	自身の行った研究内容を論文や報告書・学会発表などの形にまとめることができる。 他の研究者の発表に対して質問や意見を述べるることができる。
			科学的探究のためのデータ活用	研究データを適切に記録、管理できる。 統計資料をデータベースや文献・図書から検索し活用できる。 データの特徴を読み解き、おきている事象の背景や意味合いを理解している。 データの発生現場を確認することの重要性を理解している。 データを読み解くうえで、ドメイン知識が重要であることを理解している。 データを活用した一連のプロセスを体験し、データ活用の流れ(進め方)を理解している。 AIを活用した一連のプロセスを体験し、AI活用の流れ(進め方)を理解している。 実践の課題に基づき研究が開始され、研究成果が実践に還元され、実践の根拠となることを理解している。 主なバイアスや交絡を理解し、例示できる。 データ活用に必要な道具としての数学および統計を理解している。 AI活用に必要な道具としての数学および統計を理解している。 看護活動に必要な基本的データセットを構築し、収集、分析、解釈できる。
	最善のエビデンスを看護実践に取り入れる	根拠に基づいた実践の理解	PICO(PECO)を用いた問題の定式化ができる。 根拠に基づいた実践(EBP)と研究の循環的發展について説明できる。	



CS : 対象ケアのための臨床スキル(Clinical Skill)人々のライフサイクル・健康状態・生活する場での看護において必要な技能を修得し、根拠に基づく質の高い看護を実践する。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力
CS : 対象ケアのための臨床スキル(Clinical Skill)	専門的知識に基づいた看護過程	看護過程の理解と実践	<p>看護ケアにかかわるプロセスを理解し、実践できる。</p> <p>看護における問題解決の思考プロセスについて理解し、実践できる。</p> <p>看護におけるクリティカルシンキングの思考プロセスについて理解し、実践できる。</p> <p>看護過程(アセスメント、分析、計画、実施、評価)、対象者への科学的アプローチ、臨床推論アプローチを説明できる。</p> <p>基本的なケアプランの目標・計画立案・実施・アウトカム・評価するための看護活動のプロセスを理解し、実践できる。</p> <p>ケア提供に対する説明責任を果たすことができる。</p> <p>ケアに対するアウトカムを評価するための看護活動を説明できる。</p> <p>セルフケア管理を促進するための看護活動を説明できる。</p> <p>対象の身体・心理・社会的ならびに生活上の課題に対して根拠に基づいた個別的な看護実践を説明できる。</p>
		対象の身体・心理・社会的ニーズの分析	<p>看護学的アプローチに必要な対象者の身体・心理・社会的な情報を収集できる。</p> <p>対象の日常生活行動、全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)から、対象者の状態と状況の情報を収集できる。</p> <p>看護学的アプローチに基づき、対象者のニーズや課題に関する情報を本人または適切な家族から得ることができる。</p> <p>アセスメントガイドに基づき対象の身体・生活機能、心理、社会的な情報を収集できる。</p> <p>対象のPersonal Health Record(PHR)や各種診断書・証明書、診療情報提供書から看護に必要な情報を収集できる。</p> <p>対象の情報収集から得られたデータをフレームワークに基づき整理できる。</p> <p>情報収集で得られたデータを解釈・分析・推論し、対象のニーズを包括的・焦点的にアセスメントできる。</p> <p>対象がもつ健康課題に対して、受療に至るまでにどのような過程があるかを身体・生活機能、生活行動、心理、社会的視点からアセスメントできる。</p> <p>対象がもつ健康障害に対して、主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法の知識を活用してアセスメントし、身体・心理・社会的なニーズと課題を抽出できる。</p> <p>対象の疾病認識や症状などの自己管理の状況、臨床検査値・画像の推移や結果から、セルフケアの現状と健康課題をアセスメントできる。</p> <p>対象の心理・社会的背景や生活に関する情報からニーズを明確にし、心理・社会的課題・健康課題を抽出できる。</p>
		対象の目標・アウトカムの設定	<p>看護学の視点から人々の身体・心理・社会的なニーズを明確にし、看護目標ならびにアウトカムを設定できる。</p> <p>対象がその人らしい生活を送るために、関係する職種や機関と必要な情報、目標・アウトカムを共有できる。</p> <p>看護学の視点から人々の心理・社会的課題・健康課題に対して、対象のニーズや意思決定支援を支える目標とアウトカムを設定できる。</p> <p>看護目標と看護成果を設定し、応じた評価日を設定できる。</p> <p>看護学の視点から明確にされた人々の身体・心理・社会的なニーズの優先順位を決定できる。</p>
		目標・アウトカムに基づく計画立案・実施	<p>看護目標を達成するために必要な看護実践内容をガイドラインやその他の根拠を活用して、計画立案できる。</p> <p>立案された看護計画に必要とされる看護技術・留意点ならびに実践内容を評価する方法を説明・記載できる。</p> <p>立案した看護計画に示された観察計画・ケア計画・教育計画について目的・根拠を対象の理解度に合わせて説明できる。</p> <p>立案した看護計画に示された観察計画・ケア計画・教育計画を対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた目的・方法で、安全・安楽に実施できる。</p> <p>看護実践の適切な実施・未実施・不適切な実施が、対象者へ及ぼす影響と侵襲を理解し、改善・維持・変化なし・悪化のリスクを予測できる。</p>
		目標・アウトカムに基づく報告・評価・改善	<p>実施した看護計画や看護目標を個別的な状態に応じて看護判断に基づき評価・修正できる。</p> <p>実施した看護計画に対する人々の反応や状態の変化を適切な相手に報告・連絡・相談できる。</p> <p>看護学の視点に基づく情報収集から看護計画の評価までを一連の枠組みに沿って適切に記述できる。</p> <p>患者アウトカムと看護アウトカムを評価し、改善策を提示できる。</p> <p>看護の経過を主観的情報・客観的情報・アセスメント・計画(SOAP)で記載できる。</p> <p>看護記録の重要性と社会的位置づけを理解し、適切に記載し、取り扱うことができる。</p> <p>Personal Health Record(PHR)、Electronic Health Record(EHR)などの健康医療データの特徴を理解し、適切に記録、連携、利活用できる。</p> <p>継続看護を目的とした看護要約(サマリー)や過去の経過をまとめた看護要約を作成できる。</p>
		ケアにおける相互作用	<p>看護実践の全段階において、対象の意思を尊重、倫理と人権の原則を適用できる。</p> <p>看護実践の全段階において、思いやり、共感、尊重など共感的な関係構築に基づき、対象とかかわることができる。</p> <p>看護実践の全段階において、対象者の多様性を理解し、対象の意思決定を支援できる。</p> <p>対象に必要な知識・技術を用いてケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実践できる。</p> <p>対象の理解度に応じて、専門用語を使わずに、わかりやすく説明できる。</p>
		根拠に基づいた看護実践の理解	<p>看護実践の向上のために、現在の看護実践について論理的・批判的に思考できる。</p> <p>看護実践の根拠として、様々な情報を客観的・批判的に整理する必要性を説明できる。</p> <p>看護実践の向上における研究の必要性・意義が説明できる。</p> <p>看護の実践が看護学をはじめ、人文科学、生命科学の研究に基づいていることを説明できる。</p>

CS：対象ケアのための臨床スキル  
(Clinical Skill)

根拠に基づいた看護実践	根拠に基づいた実践の基本	<p>科学の知見を理解・行使するための基礎的な言語リテラシーを身につけている。</p> <p>根拠に基づいた実践(EBP)に必要な基礎的な情報リテラシーを身につけている。</p> <p>根拠に基づいた実践(EBP)とは何かを説明できる。</p> <p>根拠に基づいた実践(EBP)と看護師の意思決定について説明できる。</p> <p>根拠に基づいた実践(EBP)の3要素、5つのステップについて説明できる。</p>
	根拠に基づいた課題解決	<p>解決しようとする課題を明確にし、検索対象となる臨床疑問(Clinical Question)を挙げることができる。</p> <p>エビデンスを入手するための情報ソースの種類を説明できる。</p> <p>エビデンスの検索の方法を説明でき、文献データベースを活用できる。</p> <p>文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現できる。</p> <p>様々な研究方法(横断研究、ケースコントロール、後ろ向きコホート、前後比較研究、ランダム化比較試験、システマティックレビュー、ケーススタディ、内容分析、グラウンデッドセオリー、現象学的研究)の論文を読むことができる。</p> <p>得られたエビデンスの批判的吟味ができる。</p> <p>得られたエビデンスが、直面している課題に適用可能かを検討できる。</p> <p>蓄積された看護ケアに関するエビデンスと専門知識、対象の個性を加味し、課題解決のアプローチ方法を検討できる。</p>
	根拠に基づいた看護実践の適用	<p>エビデンスが常に変化することを説明し、最新・最善のエビデンスにアクセスできる。</p> <p>診療ガイドラインの種類、推奨の強さ、使用上の注意を説明し、実践に取り入れることができる。</p> <p>対象に最適な支援を提供するために、最良のエビデンスを対象の価値観と統合し、専門的スキルをもって看護に取り入れることができる。</p> <p>ケア実践の結果(アウトカム)を評価できる。</p>
対象者中心の共感的な看護実践	対象者中心の共感的なケア	<p>対象の健康段階に応じた心身の状態と家族の状態をアセスメントし、看護を実践できる。</p> <p>ストレス・危機モデルとコーピングについて理解し、看護を実践できる。</p> <p>家族における役割発達や発達課題を説明し、必要な看護を実践できる。</p> <p>対象の尊厳と生活の質(Quality Of Life&lt;QOL&gt;)を支える看護を説明できる。</p> <p>対象を重症化予防や社会的リスクを回避する視点でアセスメントし、必要な看護を実践できる。</p> <p>対象の疾患や入院生活が家族に及ぼす影響を説明し、家族の特性に応じた看護を実践できる。</p> <p>対象の健康段階に応じた疾患マネジメントならびに症状マネジメントに関連する看護を実践できる。</p> <p>対象の生活の場に応じてニーズを把握して初期把握を行い、看護援助の目的・方法・根拠・手順や注意点・評価を説明し、対象に与える影響を予測・観察しながら、安全・安楽に実施できる。</p> <p>対象の生活の場における環境の特性を説明し、対象や家族に適用することができる社会資源や制度を探索、関係者と連絡調整する必要性を説明できる。</p> <p>対象の生活の場における環境の特性や地域特性の違いを理解し、期待される看護の役割・目的・方法・根拠・観察・評価に応じた看護実践を提案できる。</p> <p>日常生活や外来診療・在宅療養・入院・施設入所などにおける対象の健康・病気・死の捉え方を理解し、看護実践できる。</p> <p>地域に暮らす対象と家族の健康状態や特性、ケアニーズについて、人々の価値観、地域の特徴、文化を踏まえ、アセスメントできる。</p> <p>対象のリハビリ、ストレングス、エンパワメント、レジリエンスなどの概要を理解し、社会生活を支える支援を実践できる。</p>
	対象者中心の意思決定支援	<p>患者本位の医療の実現のために、エンパワメント、共有的意思決定支援の意義を説明できる。</p> <p>対象や家族と情報共有や意見のすり合わせを行い、説明と同意を踏まえた意思決定を支援できる。</p> <p>地域に暮らす対象と家族の自己決定(意思決定)への支援について説明できる。</p> <p>対象や家族に適用することができる社会資源や制度を探索し、必要に応じて提案できる。</p> <p>対象や家族などの意向を把握し、治療方法、サービス利用、療養や看取りの場などケアや医療に関する適切な選択について相談に乗ることができる。</p> <p>対象の経験や価値観を尊重した意思決定支援を実践できる。</p>
	各ライフサイクル期に応じた看護実践	<p>対象の各ライフサイクル期に応じたヘルスプロモーションを説明し、看護の役割を説明できる。</p> <p>対象の各ライフサイクル期に特有な看護技術を説明し、対象や家族に適した方法で実践できる。</p> <p>対象の各ライフサイクル期に応じた健康障害に対してニーズ分析をし、解決する看護活動を説明できる。</p> <p>対象の各ライフサイクル期や疾患に応じて活用される医療施設・福祉施設などの役割と看護のあり方について説明できる。</p> <p>対象の各ライフサイクル期や家族のヘルスリテラシーを把握し、療養に必要な知識や健康管理に関する支援を実践できる。</p> <p>対象の各ライフサイクル期の成長・発達と健康上の課題を統合し、生活の場に応じたニーズをとらえた看護を説明できる。</p>
	ライフサイクル期に応じた看護実践(小児)	<p>小児期逆境体験をもつ人々のためのトラウマインフォームドケアの概念を説明できる。</p> <p>医療的ケア児およびその家族に対する支援に関する法律など関連する社会資源を理解し、医療的ケア児への必要な看護について説明できる。</p>
	対象者中心の共感的な看護実践	<p>成人移行期における治療継続や自分らしい生活の実現のための看護を説明できる。</p> <p>依存症をもつ人々とその家族への支援の概要を説明できる。</p> <p>将来の家族計画を見据えた、女性や夫婦への支援の概要を説明できる。</p> <p>対象の苦痛や不安感に配慮しながら、治療と生活の両立支援や家族への適切な支援を計画できる。</p>



CS：対象ケアのための臨床スキル  
(Clinical Skill)

ライフサイクル期に応じた看護実践(高齢)	<p>高齢者総合機能評価を実施できる。</p> <p>国際生活機能分類に基づいて高齢者の生活機能をとらえることができる。</p> <p>認知症患者に必要なケアを理解し、看護実践に活かすことができる。</p> <p>加齢に伴う身体・臓器機能の生理的変化や心理・社会的変化を説明できる。</p> <p>高齢者の身体・心理・社会的変化ならびに価値観、スピリチュアリティを踏まえ、包括的視野をもってアセスメントできる。</p> <p>高齢者に特有な看護技術から対象者に適した方法を選択、実践できる。</p> <p>高齢者の加齢変化に伴う健康障害リスクをアセスメントし、ADLの維持ならびに新たな健康障害を予防するためのマネジメントやケアを実践できる。</p>
在宅療養支援	<p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル、在宅という場に応じた療養環境整備や福祉用具活用、リハビリテーションについて説明できる。</p> <p>在宅療養者の医療的ケアおよび、家族に対する支援に関する法律など関連する社会資源を理解し、必要な看護について説明できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル、在宅という場に応じたリスクマネジメント、災害時の療養者支援を説明できる。</p>
対象者のセルフケア管理の促進	<p>セルフケアの基本的概念を理解し、説明できる。</p> <p>対象や家族の自己決定権を尊重し、看護実践に活かすことができる。</p> <p>対象の健康段階に応じたセルフケアや行動変容を目指し、関心や動機付けの視点を踏まえた健康学習支援を実践できる。</p> <p>対象や家族のセルフケア能力をアセスメントし、持てる力を最大限に発揮することができる支援方法を説明できる。</p> <p>対象や家族などのヘルスリテラシーとセルフケア力を把握し、療養に必要な知識や健康・医療管理の教育方法を説明できる。</p> <p>対象や地域に暮らす人、在宅療養者やその家族の強み・主体性を引き出し、セルフケア力の発揮を促す支援について説明できる。</p> <p>地域の人々の生活と健康を支えるピアサポート、住民同士の支え合い、通いの場の意義や内容を説明できる。</p> <p>円環的質問など基本的な看護技術を用いて、家族の意思決定とセルフケアを支援する方法を説明できる。</p> <p>必要な療養やセルフケアについて、社会生活に求められる仕事と生活の観点から就労生活、家族生活との両立を支援する方法を説明できる。</p> <p>すべての人々に意思決定の権利があることを説明し、自己決定と自己実現を目指す援助を行う方法を説明できる。</p> <p>脱水、熱中症、転倒、熱傷、誤嚥・窒息、火事などの生活の場でおこりやすい事故を予防するためのセルフケアを説明できる。</p> <p>環境、周囲との関係性、個人の意思、セルフケア能力、身体機能など、さまざまな資源を考慮して対象の強みを見出し、それを活かしたケア計画を構想できる。</p> <p>セルフケア管理に向けて対象者となる人々がより良い方法を選択する過程を支えることができる。</p>
対象者中心のケアのための専門職連携	<p>対象の健康状態に応じて適切な医療機関や診療科につなぐ重要性、方法を説明できる。</p> <p>対象の意向を尊重し、関係者と連携をとりながら、看護を提供する方法を説明できる。</p> <p>対象の健康段階に応じた多職種や関係機関との連携・協働を理解し、実践できる。</p>
基本的な看護技術(コミュニケーション)	<p>対象または家族から情報を得るために必要な面接に関する技術を実践できる。</p> <p>人間関係構築のためのスキル(ラポール)ならびに基本的なカウンセリング技術を実践できる。</p> <p>対象の意思決定支援のために、最善のエビデンスを可能な限り専門用語を使わずに、わかりやすく説明できる。</p>
基本的な看護技術(感染)	<p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、スタンダードプリコーションおよび感染経路別予防策が実施できる。</p> <p>適切な手技とタイミング(WHO5moments)での手指衛生・个人防护具(PPE)の着脱・破棄が実施できる。</p> <p>感染予防として感染の成立、感染予防の3原則、医療関連感染、感染経路の遮断、標準予防策・感染経路別予防策、ゾーニング、感染性廃棄物、医療器材の洗浄・消毒・滅菌、無菌操作について理解し、実践できる。</p>
日常生活行動を支援する技術	<p>日常生活行動に関する看護技術の医療安全について説明し、実践、評価できる。</p> <p>日常生活行動に関する看護技術の目的・方法・根拠・観察・評価の視点を理解し、対象に与える侵襲を予測・観察しながら、安全・安楽に実施できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル、生活する場に応じた方法で、日常生活行動に関する看護技術の説明、苦痛の軽減、危険の察知と対処方法、専門職連携を行うことができる。</p>
日常生活行動を支援する技術(活動と休息)	<p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、身体症状に対する支援(マネジメント)を実施し、安楽を促すことができる。</p> <p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた環境調整技術を実践できる。</p> <p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた活動・休息、リラクゼーションにかかわる看護技術を実践できる。</p> <p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた体位の現状や良肢位を分析し、ボディメカニクスやノーリフトの視点を意識した援助技術を実践できる。</p> <p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた対象者の生活行動を支える歩行補助具、車椅子、義肢(義手、義足)と装具について説明、工夫、提案できる。</p>
日常生活行動を支援する技術(食べる)	<p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた食事援助技術、栄養管理技術を実践できる。</p> <p>栄養療法において、対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた栄養の種類と適応、禁忌、投与経路を理解し、説明、工夫、提案、管理、実施できる。</p> <p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた食事・栄養管理を説明、工夫、提案できる。</p>
日常生活行動を支援する技術(排尿・排便)	<p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた排泄援助技術・管理を実践できる。</p>
日常生活行動を支援する技術(清潔・整容)	<p>対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた清潔・衣生活・整容援助技術を実践できる。</p>

CS：対象ケアのための臨床スキル  
(Clinical Skill)

<p>専門的知識に基づいた看護技術</p>	<p>生命活動を支える援助技術</p>	<p>対象の健康障害と段階、ライフサイクルに応じた方法で、バイタルサイン(生命兆候)を測定し、個別性に応じた正常・通常からの逸脱を説明できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、循環を整える技術(体位、静水圧作用、温熱作用、活動)を実施できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、効率的な呼吸方法、痰を咯出させる方法、吸入療法・吸引、酸素療法、人工呼吸器のケアを実施できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、効率的な体温調節援助(熱産生・熱放散、罨法、温熱作用)を実施できる。</p>
	<p>治療・処置・検査に伴う援助技術の基本</p>	<p>治療・処置・検査の援助に関わる医療安全について説明し、実践、評価できる。</p> <p>治療・処置・検査に応じた観察項目を説明し、異常の早期発見と必要な看護を實踐できる。</p> <p>治療・処置・検査の援助に関する看護技術の目的・方法・根拠・観察・評価の視点を理解し、対象に与える侵襲を予測・観察しながら、安全・安楽に実施できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、治療・処置・検査の説明、苦痛の軽減、危険の察知と対処方法、専門職連携を行うことができる。</p> <p>検査の種類(生体検査・検体検査)、身体計測実施時注意点を理解し、対象の健康障害と段階、ライフサイクル期、理解度に応じた方法で適切に管理・実施できる。</p> <p>主要な臨床・画像検査の特性(感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率・検査後確率、尤度比、ROC曲線)と判定基準(基準値・基準範囲、カットオフ値、パニック値)を説明できる。</p> <p>検査・治療・処置などを受ける人の心身の状況をアセスメントし、意思決定を支える看護実践ができる。</p>
	<p>治療・処置・検査に伴う援助技術</p>	<p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、創傷の分類と治療過程を理解し、説明できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場に応じた創傷の特徴を説明し、適切な創傷管理技術を實踐できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、褥瘡の予防、評価、処置・治療、褥瘡の管理が実施できる。</p> <p>対象の治療に関連した医療関連機器圧迫創傷(Medical Device Related Pressure Ulcer:MDRPU)の予防策を實踐できる。</p> <p>対象が受ける薬物療法の薬物動態、薬理作用・副作用・相互作用、安全管理、処方理解し、看護活動を實踐できる。</p> <p>対象の健康障害と段階、ライフサイクル・生活する場・与薬法(経口・口腔内・直腸内・点眼・点入・点鼻・点耳・吸入・塗布・貼付・注射法)に応じて、適切に管理、説明、援助が実施できる。</p> <p>注射で使用する物品、消毒法、注射針、薬液、注射部位、注射器の把持、注射の種類によって生じるリスクを理解し、適切な管理、実施ができる。</p> <p>薬剤投与における感染予防、事故発生時の対応、リスクマネジメントを理解し、適切・迅速に実施、対応できる。</p> <p>輸血の目的・輸血療法の原則、輸血用血液製剤、副作用・感染症情報を理解し、安全かつ適正な輸血が実施できる。</p> <p>救命救急処置(一次救命処置・二次救命処置)を實踐できる。</p>
<p>健康段階に応じた看護実践</p>	<p>クリティカルケア状況にある対象への看護実践</p>	<p>外傷の初期対応に関する診療を支援できる。</p> <p>アナフィラキシーショックの概要ならびに症状を理解し、早期発見・治療につなぐ行動がとれる。</p> <p>ショック状態の人々に必要な治療の概要と原因に応じた支援について説明できる。</p> <p>全身麻酔下の手術を安全に行うための術前評価の概要を説明し、術後合併症のリスクアセスメントができる。</p> <p>気道確保の方法と適切な診療支援の方法を説明できる。</p> <p>重篤な健康状態にある人々への症状管理・生命維持に関する看護を實踐できる。</p> <p>手術を受ける人々の疾患説明や現状認識を把握し、意思決定を支える看護を實踐できる。</p> <p>周術期における主な薬剤の服薬管理(継続、中止など)の必要性和それに伴うリスクについて説明し、看護を實踐できる。</p> <p>安全安楽な周術期のための術前の看護(オリエンテーションや身体的準備など)の必要性を説明できる。</p> <p>急性期や重篤な健康状態にある人々に必要な全身管理の概要を説明できる。</p> <p>急性期や重篤な健康状態にある人々の異常の早期発見、必要な看護支援を計画し、實踐できる。</p> <p>急性期や重篤な健康状態にある人々の家族の状況をアセスメントし、支援の必要性を考慮することができる。</p> <p>急激な健康破綻をきたす疾患ならびに外傷の病態をアセスメントし、基本的な看護援助を実施できる。</p> <p>多様な疾患が急性増悪に至る誘因を説明し、予防的な看護を計画し、實踐できる。</p>
	<p>急性期・周術期にある対象への看護実践</p>	<p>急性期・周術期における対象の病態・生理・症状・生じやすい健康転帰を説明できる。</p> <p>急性期・周術期における主要な疾患、検査と治療について説明できる。</p> <p>急性期・周術期における必要な観察、症状マネジメントと、対象との協働による改善への方略を説明できる。</p> <p>急性期・周術期における症状・生体変化のモニタリング、生体管理、重症化予防の看護ができる。</p> <p>急性期・周術期に生じやすい対象の心理・社会的な問題を理解し、予防的な視点で対策できる。</p>
	<p>症状マネジメント・緩和ケアを必要とする時期の対象への看護実践</p>	<p>緩和ケアを必要とする時期における対象の病態・生理・症状・生じやすい健康転帰を説明できる。</p> <p>緩和ケアを必要とする時期における主要な疾患、検査、治療について説明できる。</p> <p>緩和ケアを必要とする時期における必要な観察、症状マネジメントと、対象との協働による改善への方略を説明できる。</p> <p>緩和ケアを必要とする時期における症状・生体変化のモニタリング、生体管理、重症化予防の看護ができる。</p> <p>緩和ケアを必要とする時期に生じやすい対象の心理・社会的な問題を理解し、症状緩和について提案し、その効果を評価できる。</p>
	<p>回復期・リハビリテーション期にある対象への看護実践</p>	<p>回復期における対象の病態・生理・症状・生じやすい健康転帰を説明できる。</p> <p>回復期における主要な疾患、検査と治療について説明できる。</p> <p>回復期における必要な観察、症状マネジメントと、対象との協働による改善への方略を説明できる。</p> <p>回復期における症状・生体変化のモニタリング、生体管理、重症化予防の看護ができる。</p> <p>回復期に生じやすい対象の心理・社会的な問題を理解し、対象やキーパーソンの回復へ向けた意欲を高める援助ができる。</p>





CS：対象ケアのための臨床スキル (Clinical Skill)	幅広い知識に基づいた臨床判断	臨床判断における情報の知覚	対象のニーズ・常在条件・病理的状态から対象の状況を予期できる。
			正常・通常からの逸脱や逸脱のリスクとなる顕著なデータ、有用な情報から、対象のどのデータ(所見)が特定の文脈上の臨床状況に関連し、どのデータが関連していないか気づくことができる。
			対象のライフサイクル、健康段階と健康障害の程度、症状・徴候、状態に応じた問診・フィジカルイグザミネーション(身体診察基本手技、部位別身体診察)により情報収集し、フレームワークに当てはめて整理できる。
			病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)の面接、五感(視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚)、包括的・系統的アプローチにより情報収集し、フレームワークに当てはめて整理できる。
			対象に積極的にかかわる中での、系統的かつ焦点を絞ったデータ収集、多様な主観的・客観的データを収集できる。
			正常値からの逸脱の有無、直近の状態からの変化および経時的変化など、データを定期的にモニタリングできる。
		情報識別・情報の解釈・意味づけ	重要な情報(Cue)の探索の施行し、典型的なパターンからの顕著な逸脱の認識し、重要な情報を着目できる。
			単純・頻出・一般的な状況で、既知のパターンと比較し、データの解釈・分析・推論することでデータの意味づけ・重みづけ、患者の状況を説明できる。
			単純・頻出・一般的な状況で、既知のパターンを参照し、標準的・個別的・優先順位のある看護を計画できる。
		臨床判断における反応・省察	情報を分析・解釈し、関連する原因・誘因を複数想起し、仮説の棄却と採択を繰り返し、仮説の優先順位を推論できる。
			顕著なデータをもとに、看護を実践し、患者のアウトカムから実践の省察ができる。
			分析的な選択・直観的な行為・決定の共有などの実践を通して、患者のアウトカムを評価できる。
		臨床判断に基づく専門職連携	看護成果、看護実践の経験を振り返り、適切な評価できる。
			看護実践の改善策を医療専門共通言語にて同職種・他職種に言語化し、看護実践の改善に関与できる。
			チームメンバーに、患者の状況、看護の方向性、相談事を伝えることができる。



CM: コミュニケーション能力 (Communication) 看護職として対象ならびに多職種の多様な背景を理解し、良好な関係性の構築ならびに他者との相互作用によって質の高い看護を実践する。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力
CM: コミュニケーション能力 (Communication)	人間関係の構築	コミュニケーションの基本(自己理解)	自己と他者の概念について説明できる。 自己の発達に直面する危機について、看護理論に基づき説明できる。 役割と自己と社会との関係性について説明できる。 自己理解・他者理解のプロセスを理解している。
		コミュニケーションの基本(人間関係の成立・発展)	コミュニケーションの概念、基本原理、構成要素と成立過程を説明できる。 コミュニケーションの種類と概要を説明できる。 人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法について説明できる。 コミュニケーションにおける人間関係と集団・組織の特徴を説明できる。 コミュニケーションが人々との相互の関に影響することを説明できる。 言語的・非言語的コミュニケーションの相互作用について理解し、実践できる。 準言語・身体動作・身体接触・空間行動を活用して、コミュニケーションを実施できる。 コミュニケーションに影響する要因について説明できる。 アサーションの目的・方法について理解して、活用できる。 効果的なパートナーシップを結ぶことができる。
	対象者との援助関係の構築	対象に応じたコミュニケーションによる援助関係構築	看護学でコミュニケーションを学ぶ意義、看護理論・その他理論に基づいたコミュニケーションを説明できる。 看護師の役割と責任を明確に説明できる。 コミュニケーションにおいて感情的知性を発揮できる。 社会的コミュニケーションと専門的コミュニケーションの違いを説明できる。 コミュニケーションに必要な技術と態度と妨げる要因について説明できる。 対象の状態・状況・目的に応じたコミュニケーション技法を選択し、実施できる。 対人関係にかかわる心理的要因(陽性感情・陰性感情など)を認識し、コミュニケーションを実施できる。 対象に応じた必要な態度(挨拶・言葉遣い・身だしなみ・プライバシー配慮・価値観の尊重・意思決定支援)を実施できる。 看護の対象(個人・家族・集団・地域)との信頼関係の形成に必要なコミュニケーションの技法、コミュニケーションツールを活用できる。 アンガーマネジメントを理解し、他者とのコミュニケーションを実施できる。 対象に応じた言語的・非言語的・準言語・空間・身体動作・身体接触などを用いたコミュニケーションを実施し、関係を形成できる。 対象の理解力や関係者の把握、根拠をもった説明、説明と同意、環境調整などのコミュニケーションを実施できる。 各ライフサイクル期・活動の場・健康段階・DEIに応じたコミュニケーションを実施できる。 困難な対象(沈黙、饒舌、混乱、精神状態または認知能力低下、情緒不安定、攻撃的・怒っている状態、思わせぶりな態度、差別的な態度、アドヒアランスが低い、聴覚障害、低視力・視覚障害、個人的な問題、識字能力が低い・ヘルスリテラシーが低い、言葉の壁がある、終末期や死期が近い)の状態・状況・目的に応じたコミュニケーションを実施できる。
		対人援助関係の省察	プロセスレコードの目的を理解し、作成・分析、活用できる。 ロールプレイの目的・方法を理解し、問題解決技法として活用できる。 フィードバックの目的・方法を理解し、活用できる。 リフレクションに必要な基本的スキル(自己への気づき、表現・描写・記述、評価、批判的分析、総合など)を理解し活用できる。 リフレクションの目的・方法を理解し、活用できる。
		対象の意思を尊重した意思決定支援	対象の信念、価値観、個人情報を考慮したコミュニケーションを実施できる。 対象の人権を尊重した意思決定支援できる。 対象と医療者との間の情報の非対称性を理解し、看護実践に活用できる。 インフォームドコンセント、看護師の役割について理解し、看護実践できる。 状況に即した意思決定支援に関するガイドラインを理解し、実践に活用できる。 意思決定支援に必要な情報提供や質問の方法などを理解し、実践に活用できる。 対象の意思決定プロセスを理解し、看護実践に活用できる。 ダイバーシティ(多様性)・エクイティ(公平性)・インクルージョン(包括性)を受け入れ、継続的なコミュニケーションをとることができる。 対象の意思決定を支援、共有意思決定(Shared Decision Making)を支援できる。 日常の看護援助場面で、対象の意思を尊重し、主体的な決定を引き出す重要性を理解し実践できる。 保健・医療・福祉における対象のアドボカシーを理解し、看護職の役割を説明できる。
	対象者との援助関係の支援	対象に応じた教育とカウンセリングの支援	看護における教育的支援について理解し、対象と関係者のセルフケアを支援できる。 対象への教育・相談・指導におけるコミュニケーションを説明できる。 ヘルスリテラシー、視力、聴力、文化的感受性を考慮し、エビデンスに基づいた患者指導用教材を使用できる。 SPIKES(準備・理解度の評価・何を伝えてよいかの確認・知識と情報提供・感情への共感・戦略とまとめ)の6ステップのプロトコルを説明できる。 看護場面におけるカウンセリングの意義、目的を理解している。 コミュニケーション技法として積極的傾聴・共感的理解を説明できる。

CM: コミュニケーション能力 (Communication)	対象者との援助関係の促進	アセスメントガイドを用いた情報整理	<p>主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビューなどを情報収集し、整理できる。</p> <p>初期把握として適切なコミュニケーションを実施し、情報を整理できる。</p> <p>アセスメントガイドとしてマズローの基本的欲求・ヘンダーソンの基本的ニーズに基づく14の構成要素、ゴードンの機能的健康パターンなどを活用し、情報収集・整理ができる。</p> <p>対象の感情・考え・生活や役割・保健・医療・福祉における期待を情報収集できる(患者の考えを知る:FIFE)。</p> <p>主訴と病歴、主観的情報、症状の構成要素を理解し、OPQRST、OLD CARTSなどのスキルを活用し、情報収集できる。</p>
		健康に影響を与える個人的、社会的、経済的、環境的要因	<p>対象や家族の多様性(高齢者、小児、障害者、LGBTQ、国籍、人種、文化・言語・慣習の違いなど)に配慮してコミュニケーションを実施できる。</p> <p>法律、規制、方針のガイドラインに従ってコミュニケーションを実施できる。</p> <p>対象の健康段階・ライフサイクル・地域社会、理解度に応じたコミュニケーションをとることができる。</p> <p>対象者・家族・関係者・集団・地域・組織などの視点を持ち、対象者の状況・状態に応じたコミュニケーションをとることができる。</p> <p>関係ステークホルダーとの効果的な連携と相互説明責任を実施できる。</p>
	医療専門職との関係構築	チームベースの専門職間連携の促進	<p>情報伝達として看護記録の目的と意義、種類、記載方法を説明できる。</p> <p>情報伝達として、I-SBARなどの専門職間連携を可能とする報告方法を実施できる。</p> <p>情報伝達として、専門職間連携を促進するテクニカルスキル・ノンテクニカルスキルなどを活用できる。</p> <p>カンファレンスにおいて自身の意見を医療専門職共通言語で発言し、メンバーの意見を聴くことができる。</p> <p>医療専門職と協働し、健康や集団衛生の問題に取り組むためのコンサルテーション技術を実施できる。</p> <p>多職種間での情報共有する際の要配慮情報を説明できる。</p> <p>対象・利用者・家族に関連する情報について、専門職連携間で適切に共有・管理できる。</p> <p>自己の知識や価値観、対象の状態・状況・考察を多職種および同職種に報告・連絡・相談できる。</p> <p>専門職連携のコミュニケーションに必要なコーディネーション・マネジメント・リーダーシップ・ファシリテーションなどのスキルの必要性と方法を説明できる。</p> <p>他職種の視点や経験を傾聴・尊重し、情報共有できる。</p>
		専門職間連携によるケアの促進	<p>課題発見・課題解決に向けた計画・方法・実施・評価を他者と協働して実施できる。</p> <p>自己の価値観や言動について、多職種および同職種・同僚との関係性の中で相対化し、意思決定支援のために発言、共有できる。</p> <p>自己の偏見を自覚し、チームメンバーとの相互尊重やコミュニケーションにどのような影響を及ぼすかを説明できる。</p> <p>建設的なコミュニケーションを図り、コンフリクト・マネジメントを促進できる。</p> <p>個人、地域社会、または集団のために、専門職種間のチームメンバーと協力して相互のヘルスケア目標を設定できる。</p> <p>患者中心のケア決定を行うために、チームメンバーの視点を引き出し、情報共有・ケアに活用できる。</p> <p>プロフェッショナルで正確かつタイムリーに必要な情報を医療専門職共通言語、テクニカルスキル・ノンテクニカルスキルを活用し、伝達できる。</p> <p>ダイバーシティ(多様性)・エクイティ(公平性)・インクルージョン(包括性)に基づくコミュニケーションがケアの質に与える影響を説明できる。</p>



IT:情報・科学技術を活かす能力 (Information Technology)

安全で質の高い、効率的な保健医療サービスを提供・管理するために、発展する情報通信技術や人工知能を活用したデータ収集、意思決定を促す情報形成、信頼性の高い知識・情報・データに基づいた看護を実践する。科学技術の活用により、対象へのより快適な生活へ向けた支援・健康促進を実現し、看護提供の質を向上させる。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力	
IT:情報・科学技術を活かす能力 (Information Technology)	ICT活用と情報リテラシー	社会におけるデータ・AI利活用	<p>社会におきている変化として、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会、複数技術を組み合わせたAIサービス、人間の知的活動とAIの関係性、データの起点と人間の知的活動の起点からの見方などを説明できる。</p> <p>社会で活用されているデータ(調査・実験・人の行動ログ・機械の稼働ログ、1次・2次データ、データのメタ化、構造化・非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)、データ作成、オープンデータ)を説明できる。</p> <p>データの活用・AIの活用領域として、その広がり(生産、消費、文化活動など)、研究開発・調達・製造・物流・販売・マーケティング・サービス、仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定・判断支援・活動代替・新規生成などを説明できる。</p> <p>情報セキュリティのリスクを理解し必要な対策を説明できる。</p>	
		基本的なデータの取り扱い	<p>データを扱ううえでの統計リテラシーを身につけることができる。</p> <p>オープンデータの定義と活用方法を説明できる。</p> <p>スプレッドシートなどを使って、小規模データ(数百件～数千件レベル)を集計・加工できる。</p> <p>データ処理言語(SQL/Pythonなど)を使って、大規模データ(数万件レベル～)を集計・加工できる。</p> <p>正規分布の母平均の信頼区間について説明でき、グラフ/統計データを批判的に考察できる。</p> <p>データを読み解くうえで、ドメイン知識が重要であることを説明できる。</p> <p>データの発生現場を確認することの重要性を説明できる。</p> <p>課題設定、データ収集、分析手法選択、解決施策に唯一の正解はなく、様々なアプローチが可能であることを説明できる。</p>	
		データ分析 (analysis)	<p>データの特徴を読み解き、おきている事象の背景や意味合いを説明できる。</p> <p>文献や現象を読み解き、それらの関係を分析・考察し表現できる。</p> <p>アルゴリズム基礎、データ構造とプログラミング基礎を説明できる。</p> <p>時系列データがもつトレンド、周期性、ノイズについて説明できる。</p> <p>文章(テキスト)や画像がデータとして処理できることを説明できる。</p> <p>データ利活用のための簡単な前処理(データ結合、データクレンジング、名寄せ)を実施できる。</p>	
		医療における情報・通信・科学技術の基本的理解	個人情報の適切な取り扱い(プライバシーとセキュリティ)	<p>個人情報保護法やEU一般データ保護規則(GDPR)など、データを取り巻く国際的な動き、関連する規制(法律、倫理基準、個人情報保護のための規定など)を遵守できる。</p> <p>保健・医療・福祉における個人情報の取扱いとセキュリティ、個別識別の方法について説明できる。</p> <p>医療機関における情報セキュリティの概要について説明できる。</p> <p>電子情報のリスクと個人情報保護、情報セキュリティ、電子保存の3基準を説明できる。</p> <p>個人のデータを守るために留意すべき事項、看護における個人情報保護・プライバシー保護について理解し、適切に対応できる。</p> <p>情報の開示に関する法的根拠と注意点を説明できる。</p> <p>データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について説明できる。</p>
			医療情報システムの基本的理解	<p>医療・看護情報の電子化と情報活用(二次利用)について説明できる。</p> <p>医療で活用されている情報システムと蓄積データの標準化について説明できる。</p> <p>組織の方針および手順に従って、システムプロセスおよび機能上の問題(エラーメッセージ、誤操作、機器の誤動作など)を報告することの重要性を説明できる。</p> <p>ケアの提供において、倫理的、法的、専門的、規制上の基準および職場の方針に従って、情報通信技術を活用できる。</p> <p>情報端末(コンピューター、スマートフォンなど)を用いてインターネットやアプリなどを医療の実践に活用できる。</p> <p>情報活用に向けた医療・看護用語の標準化の重要性について説明できる。</p>
			情報通信技術を活用したデータの収集と情報作成	<p>対象、地域社会、集団のケアに使用されるさまざまな情報通信技術ツールを理解し、説明できる。</p> <p>対象について入力されたデータが、公衆衛生データおよび集団衛生データにどのような影響を与えるかを説明できる。</p> <p>ケアを実践する際には、適切なデータを使用し、正確なデータを入力する。</p> <p>医療におけるマルチメディア・アプリケーションの適切な使用について説明できる。</p> <p>情報通信技術ツールが患者とチームのコミュニケーションをどのように支援するかを説明できる。</p> <p>患者ケアを可能にする電子医療、モバイルヘルス、遠隔医療システムの基本概念を説明できる。</p>
	医療における情報・通信・科学技術の理解	医療専門職としての情報・通信・科学技術への態度	<p>医療情報交換、相互運用性、統合が医療に与える影響を説明できる。</p> <p>情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を説明できる。</p> <p>情報・科学技術の専門家とともに、技術を医療へ応用する際に、医療者に求められる役割を説明できる。</p> <p>生活支援、健康促進や治療の最適化に向けて、テクノロジー活用の可能性を説明できる。</p> <p>新たに登場する情報・科学技術を自身の学びおよび医療に活用する柔軟性を有する。</p>	

IT:情報・科学技術を活かす能力 (Information Technology)	医療における情報・通信・科学技術の活用	適切な看護ケア提供のための情報通信技術の活用	<p>様々な環境において、多様な人々に安全な看護ケアを提供するために、情報通信技術と情報学的プロセスを説明できる。</p> <p>遠隔コミュニケーションのあり方を理解し、その目的に応じて適切なツール(電子メール、テレビ会議システム、SNSなど)を選択し利用できる。</p> <p>ソーシャルメディア(インターネット、SNSなど)の利用において、医療者として相応しい情報発信のあり方を理解し、実践できる。</p> <p>情報通信技術がケアの質と安全性に及ぼす影響を特定する。</p> <p>意思決定支援ツールが臨床判断と安全な患者ケアにどのような影響を与えるかを評価する。</p> <p>生理計測データを用いたモニタリングなどを活用し、対象のセルフケアを支援する効果を説明できる。</p> <p>医療介護保健分野で集積される情報(レセプト、健診情報、認定情報など)の種類、内容を理解し、これらの情報を看護に活用する際の意義と課題について自身の意見を述べることができる。</p> <p>医療専門職で看護の独自性を伝達するために、標準化された看護データの重要性を説明できる。</p> <p>看護が取り扱うデータと特性を説明できる。</p>
		適切な看護ケア提供のための情報通信科学技術の活用	<p>医療・介護現場でのロボットなどの活用による負担軽減、業務効率化の必要性を理解し、活用できる。</p> <p>AIやXRや画像技術などの活用の必要性・効果・課題を理解し、適切に看護ケアに活用できる。</p>
		適切な看護ケア提供のための効果的な人工知能の活用	<p>人工知能を活用して対象者に生じている問題の明確化・解決のための方策を検討できる。</p> <p>看護ケア・システムの発展や効率化についてAIを活用して考えることができる。</p> <p>医療のデジタルトランスフォーメーションの推進に伴い、これからの看護やケアの開発・質向上のあり方について、AIなどを活用して自身の意見をまとめることができる。</p>
	医療における情報・通信・科学技術のシステム活用	医療情報システムの利活用	<p>情報通信技術を使ってデータを収集し、情報を作成し、知識を生み出す。</p> <p>医療介護保健分野のデータベース(NDB、介護DB、DPCDBなど)から知見を生み出す意義や方法の概要を説明できる。</p> <p>情報・科学技術を用いて収集した情報およびデータを基に問題解決を図る。</p> <p>情報通信技術を利用して、ケアの文書化と、医療提供者、対象、およびすべてのシステムレベル間のコミュニケーション技術を向上させる。</p> <p>臨床情報の流れを強化するための通信技術の役割を説明できる。</p> <p>医療・介護・保健分野で集積されているリアルワールドデータの種類、内容、法的根拠、活用方法を説明できる。</p>
		医療情報システムの安全管理	<p>組織の中での情報管理システムについて説明できる。</p> <p>医療情報システムの安全管理ガイドラインを理解し、適切に情報システムを使用する必要があることを説明できる。</p>



PS: 医療専門職としての問題解決のための専門知識 (Problem Solving)

医療専門職としての問題解決のための専門知識、医療専門職共通ならびに看護職として問題解決するための専門的知識を保有する。

第1階層	第2階層	第3階層	資質・能力
PS: 医療専門職としての問題解決のための専門知識 (Problem Solving)	看護の基盤となる知識	看護の基盤となる知識	看護学の主要な概念を理解している。
			看護学が自然科学と人間科学の双方の要素をもち、健康に関連して人々が示す反応の意味を探索し、人々の生活を基盤として健康の維持増進、疾病予防、疾病回復への専門的援助を探究する学問であることを理解している。
			看護学固有の特性として、人間・健康をとらえる視点、方法論(アプローチ)の独自性、関連学問領域とのつながり、社会における看護の役割と看護学について理解している。
			人間・環境・健康の概念、健康に関連する主要な概念について理解し、看護活動を説明できる。
			看護職の役割や活動の変遷、それに影響する事柄を理解し、看護活動を説明できる。
			看護倫理の歴史と動向を理解し、看護活動を説明できる。
	看護の学問分野特有の視点	看護の学問分野特有の視点	看護学と看護理論の関係を理解し、看護活動を説明できる。
			看護技術とは何かを理解し、看護活動を説明できる。
			心の健康の概念について理解し、看護活動を説明できる。
			ケアの概念について理解し、看護活動を説明できる。
			看護におけるケアリングを理解し、看護活動を説明できる。
			ストレス反応について理解し、看護活動を説明できる。
医療システムにおける安全で質の高い公平な看護	医療における看護	医療における看護	人の生と死について理解し、看護活動を説明できる。
			対人関係や対人行動に関わる概念について理解し、看護活動を説明できる。
			看護の諸理論・概念を活用して人間について統合的にとらえ、看護活動を説明できる。
			看護の対象であるパーソン、チーム、ポピュレーション、システムの広がりを理解し、看護活動を説明できる。
			人間・家族・集団・地域について理解し、看護活動を説明できる。
			対象の個性や状況を考慮してエビデンスの適用について理解し、看護活動を説明できる。
	社会における看護	社会における看護	栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠、排泄など日常生活行動と機能が、健康に与える影響を理解し、看護活動を説明できる。
			生活とは何か、生活と環境や文化との関係を理解し、看護活動を説明できる。
			人間の生活・健康行動を理解するための基礎となる理論を理解し、看護活動を説明できる。
			さまざまな健康段階にある人々への支援の基盤となる諸理論・概念について説明できる。
			健康危機の概念と種類、それらへの対応(リスクコミュニケーションを含む)について理解し、看護活動を説明できる。
			ヘルス・プロモーション、ウェルネスなど、より健康的な生活へ向かう概念について理解し、看護活動を説明できる。
効果的なケアを実践するためのシステム理解	効果的なケアを実践するためのシステム理解	ノーマライゼーションの理念に基づき、障害の有無に関係なく全ての人々が社会・家庭生活を送る権利があることを理解し、看護活動を説明できる。	
		プライマリ・ヘルス・ケアの理念に基づき、対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた方法でケアを提供する必要性や方法を理解し、看護活動を説明できる。	
		権利擁護の理念に基づき、人としての基本的なニーズを守る必要性を理解し、看護活動を説明できる。	
		多様な組織における看護の役割について理解し、看護活動を説明できる。	
		医療機関における看護の組織、看護体制、看護の機能について理解し、看護活動を説明できる。	
		医療・看護の歴史、法的基盤を理解し、看護活動を説明できる。	
生命維持と生物学的な死	細胞死・心停止・脳死	演繹的思考法と帰納的思考法を理解し、看護活動を説明できる。	
		看護の知識と医療専門職の共通する知識を統合した臨床推論の必要性を理解し、看護活動を説明できる。	
		社会の変化と看護の独自性・専門性について理解し、看護活動を説明できる。	
		医療の歴史の変遷を踏まえ現代の医療の問題を相対化して理解し、看護活動を説明できる。	
		環境(社会・文化的環境、物理・化学・生物的環境、政治・経済的環境)について理解し、看護活動を説明できる。	
		疾病構造の変遷、疾病対策、保健医療福祉対策の動向と看護の役割について理解し、看護活動を説明できる。	
細胞死・心停止・脳死	細胞死・心停止・脳死	グローバリゼーション・国際化の動向における看護のあり方について理解し、看護活動を説明できる。	
		医療法が定める医療施設の種類と機能の概要を理解し、看護活動を説明できる。	
		保健医療福祉における看護サービスを提供する仕組み、看護の機能と看護活動のあり方を説明できる。	
		医療提供体制と看護師の働き方について理解し、看護活動を説明できる。	
		組織における医療安全対策など、医療機関の取組と看護の活動・役割について理解し、看護活動を説明できる。	
		継続看護、退院支援・退院調整など、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について理解し、看護活動を説明できる。	
看護職を規定する法律や関連法規(保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律など)について理解し、看護活動を説明できる。			
医療職を規定する法律・制度を理解し、看護活動を説明できる。			
医療過誤に関連した刑事・民事責任や保健師助産師看護師法に基づく行政処分を理解し、看護活動を説明できる。			
時代の流れ、社会の状況や諸制度との関わりのなかで医療に関する諸事象を捉え、構造的に理解し、看護活動を説明できる。			
心身の健康障害の早期発見・早期診断・早期治療に必要な健診などのシステムとその活用について理解し、看護活動を説明できる。			
細胞傷害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的変化の基本的事項について理解し、看護活動を説明できる。			
心停止の主な疾患・病態について病因、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。			
心停止の原因分類としての①心血管原性(急性心筋梗塞、急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、肺塞栓症)、②呼吸原性(気道閉塞、緊張性気胸、肺実質病変による低酸素血症)、③神経原性(重症頭部・脊髄外傷、急性くも膜下出血)、④中毒・環境要因(中毒、熱中症、低体温症)、⑤電解質・酸塩基平衡異常(低・高カリウム血症、アシドーシス、低血糖)と病態および診断の要点について理解している。			
植物状態、脳死、心臓死および脳死判定について理解し、看護活動を説明できる。			
死の概念と定義や生物学的な個体の死について理解し、看護活動を説明できる。			



PS: 医療専門職としての問題解決のための専門知識 (Problem Solving)	生命維持・生活行動を理解するための体の仕組み	内部環境の恒常性と看護活動	細胞や組織の構造や生理学的機能について基本的事項を理解し、看護活動を説明できる。 体液・体温恒常性の維持、常在菌・腸内細菌と宿主との相互作用について基本的事項を理解し、看護活動を説明できる。 空腹時、飢餓時、食後、過食時、運動時における代謝について理解し、看護活動を説明できる。
		恒常性維持のための流通機構・調節機構	物質流通の媒体、流通経路、流通の原動力の基本的事項を理解している。 神経系調節、液性調節について基本的事項を理解している。
	ライフサイクル期における生命維持と生活行動	ライフサイクルに特徴づけられる看護活動	各ライフサイクル期における身体・生理的特徴、精神・運動・社会的発達を理解し、看護活動を説明できる。 妊娠週数に応じた胎児の成長・発達について理解し、看護活動を説明できる。 妊娠週数に応じた母体の心身の変化・特徴について理解し、看護活動を説明できる。 妊娠と分娩で行う検査方法、特徴的な処置ならびに治療に関して理解し、看護活動を説明できる。 出産の機序について理解し、看護活動を説明できる。 分娩経過に応じた母体の心身の変化・特徴について理解し、看護活動を説明できる。 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生直後の変化について基本的事項を理解し、看護活動を説明できる。 胎児期、新生児期、産褥期の身体的経過について理解し、看護活動を説明できる。 新生児・乳幼児の生理的特徴について理解し、看護活動を説明できる。 小児期の身体の成長と生理機能の発達について理解し、看護活動を説明できる。 小児期の栄養面での特性や食育について理解し、看護活動を説明できる。 小児期の正常な精神運動発達について理解し、看護活動を説明できる。 小児期の免疫発達と感染症の関係について理解し、看護活動を説明できる。 小児の終末期の特殊性について理解し、看護活動を説明できる。 小児期から成人期への医療の移行について、現状と課題を理解し、看護活動を説明できる。 思春期発現の機序と性徴、青年期と関連する課題(生殖、いのちなどにかかわる課題)について説明できる。 ライフサイクルに成人期と関連する課題(メンタルヘルス、仕事、運動習慣、不妊などに関わる課題)について理解し、看護活動を説明できる。
	生命維持と日常生活行動	仕組みの理解と看護活動(活動と休息)	目覚める仕組み(睡眠と覚醒のリズム、メカニズム)、思考する仕組み(情報処理機能、認知プロセス)について理解し、支援するための看護活動を説明できる。 眠る仕組みとからだのリズム(サーカディアンリズム、活動周期、睡眠にかかわるホルモン)、眠り(ノンレム睡眠・レム睡眠、睡眠パターン)について理解し、支援するための看護活動を説明できる。 動く仕組みと姿勢(体位と構え、立位の保持)、神経から筋への指令と筋の収縮、意図的ではない運動(反射)、意図的な運動(随意運動)、骨格・骨格筋・関節・筋の収縮・関節可動域、歩く・つまむ・表情について理解し、支援するための看護活動を説明できる。
		仕組みの理解と看護活動(息をする)	息を吸う・吐く仕組みである呼吸器(気道と肺、胸膜、縦隔)、呼吸運動、呼吸調節、肺気量、ガス交換の仕組みである外呼吸・内呼吸、酸塩基平衡について理解し、支援するための看護活動を説明できる。
		仕組みの理解と看護活動(食べる)	食べる仕組みである食行動、摂食行動・飲水行動、口・咽頭・食道の構造と機能、腹膜・内臓の位置関係、消化と吸収(腹部消化管の構造と機能:胃・小腸・栄養素の消化と吸収・大腸、膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能)について理解し、支援するための看護活動を説明できる。
		仕組みの理解と看護活動(トイレに行く:排尿)	排尿の仕組みである尿の生成(腎臓の構造と機能・尿生成のメカニズム:濾過・再吸収・分泌)、体液量の調節(レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系・抗利尿ホルモン・酸塩基平衡(腎性代償))、排尿(排尿路の構造・尿の貯蔵)、排尿の機序について理解し、支援するための看護活動を説明できる。
		仕組みの理解と看護活動(トイレに行く:排便)	排便の仕組みである大腸の構造、便の生成、排便の機序について理解し、支援するための看護活動を説明できる。
		仕組みの理解と看護活動(清潔・整容)	清潔や整容に係る皮膚の仕組みである皮膚と付属物(表皮・真皮・皮下組織)、皮膚の血管と神経、皮膚の機能と入浴による作用について理解し、支援するための看護活動を説明できる。
		仕組みの理解と看護活動(コミュニケーション)	見る仕組みである眼の構造、視覚、視野、明暗覚・色覚、眼に関する反射について理解し、支援するための看護活動を説明できる。 話す仕組みである脳の言語や、発声に関わる器官の構造、話すための過程・経路について理解し、支援するための看護活動を説明できる。
	仕組みの理解と看護活動(性を営む)	性を営む仕組みである遺伝による男と女(染色体(遺伝子)の性・性の分化異常)、ホルモンによる男と女(性腺の性と分化・性管の性と分化・外生殖器の分化・脳の性分化)について理解し、支援するための看護活動を説明できる。 性を営む仕組みである男性生殖器の構造と機能(性機能・精子の形成)、女性生殖器の構造と機能(内性器・外性器・乳房、卵巣・子宮内膜の周期的変化、月経)について理解し、支援するための看護活動を説明できる。 性を営む仕組みである受精と胎児の発生(生殖細胞と受精・発生と生殖・胎児と胎盤)について理解し、支援するための看護活動を説明できる。	
各器官および全身の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析	人体各器官および全身の疾患・病態の理解	医療専門職として人体各器官および全身の構造と機能を理解し、主な疾患・病態についての病因、症状・徴候、検査、治療法について理解している。 医療専門職として主要な症状・徴候について原因と病態生理を理解している。 医療専門職として主要な疾病マネジメントと症状マネジメントを理解している。 医療専門職として主要な症状・徴候(症候)についての鑑別診断と診断の要点を理解している。 医療専門職として障害の構造(機能障害、能力障害)、障害の程度、評価方法について理解し、看護活動を説明できる。 医療専門職として主要な症状から予測される病態を想起し、その変化を説明できる。 医療専門職としてマリグナントサイクルを呈する病態をもつ人の身体的、精神的反応を理解している。 医療専門職として多疾患が併存した状態および複数臓器にまたがる疾患についての概要を理解している。	



PS: 医療専門職としての問題解決のための専門知識 (Problem Solving)

人体各器官の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析	血液・造血器・リンパ系の構造と機能の理解	血液・造血器・リンパ系の構造と機能について基本的事項を理解している。
	血液・造血器・リンパ系の症状・徴候に対する看護活動	血液・造血器・リンパ系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	血液・造血器・リンパ系の疾患・病態に対する看護活動	血液・造血器・リンパ系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	神経系の構造と機能の理解	神経系の構造と機能について基本的事項を理解している。
	神経系の症状・徴候に対する看護活動	神経系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	神経系の疾患・病態に対する看護活動	神経系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	皮膚系の構造と機能の理解	皮膚系の構造と機能について基本的事項、創傷の分類と治癒過程、創傷の管理、褥瘡の管理を理解している。
	皮膚系の症状・徴候に対する看護活動	皮膚系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	皮膚系の疾患・病態に対する看護活動	皮膚系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	運動器(筋骨格)系の構造と機能の理解	運動器(筋骨格)系の構造と機能について基本的事項を理解している。
	運動器(筋骨格)系の症状・徴候に対する看護活動	運動器(筋骨格)系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	運動器(筋骨格)系の疾患・病態に対する看護活動	運動器(筋骨格)系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	循環器系の構造と機能の理解	循環器系の構造と機能について基本的事項を理解している。
	循環器系の症状・徴候に対する看護活動	循環器系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	循環器系の疾患・病態に対する看護活動	循環器系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	呼吸器系の構造と機能の理解	呼吸器系の構造と機能について基本的事項を理解している。
	呼吸器系の症状・徴候に対する看護活動	呼吸器系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	呼吸器系の疾患・病態に対する看護活動	呼吸器系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	消化器系の構造と機能の理解	消化器系の構造と機能について基本的事項を理解している。
	消化器系の症状・徴候に対する看護活動	消化器系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	消化器系の疾患・病態に対する看護活動	消化器系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)の構造と機能の理解	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)の構造と機能について基本的事項を理解している。
	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)の症状・徴候に対する看護活動	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)の疾患・病態に対する看護活動	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	生殖器系・乳房の構造と機能の理解	生殖器系・乳房の構造と機能について基本的事項を理解している。
	生殖器系・乳房の症状・徴候に対する看護活動	生殖器系・乳房でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	生殖器系・乳房の疾患・病態に対する看護活動	生殖器系・乳房の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	妊娠と分娩に関する構造と機能の理解	妊娠と分娩に関する構造と機能について基本的事項を理解している。
	妊娠と分娩の症状・徴候に対する看護活動	妊娠と分娩でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	妊娠と分娩の疾患・病態に対する看護活動	妊娠と分娩に関する主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	小児の構造と機能の理解	小児の構造と機能について基本的事項を理解している。
	小児の症状・徴候に対する看護活動	小児でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	小児の疾患・病態に対する看護活動	小児の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
	内分泌・栄養・代謝系の構造と機能の理解	内分泌・栄養・代謝系の構造と機能について基本的事項を理解している。
	内分泌・栄養・代謝系の症状・徴候に対する看護活動	内分泌・栄養・代謝系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。
	内分泌・栄養・代謝系の疾患・病態に対する看護活動	内分泌・栄養・代謝系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
眼・視覚系の構造と機能の理解	眼・視覚系の構造と機能について基本的事項を理解している。	
眼・視覚系の症状・徴候に対する看護活動	眼・視覚系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。	
眼・視覚系の疾患・病態に対する看護活動	眼・視覚系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。	
耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能の理解	耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能について基本的事項を理解している。	
耳鼻・咽喉・口腔系の症状・徴候に対する看護活動	耳鼻・咽喉・口腔系でみられる主な症状・徴候に対する情報収集のための面接・フィジカルイグザミネーション、看護活動を説明できる。	
耳鼻・咽喉・口腔系の疾患・病態に対する看護活動	耳鼻・咽喉・口腔系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。	
精神系の健康障害に対するニーズ分析	精神系の仕組みと働きを理解	脳と心の働きについて基本的事項を理解している。
	精神系の症状・徴候に対する看護活動	精神系でみられる主な症状・徴候、情報収集するための面接・フィジカルイグザミネーション・コミュニケーション技法、看護活動を説明できる。
	精神系の疾患・病態に対する看護活動	精神系の主な疾患・病態について病因、疫学、症状・徴候、検査、治療法を理解し、看護活動を説明できる。
健康段階と健康障害に応じた対象の反応の理解	治療・検査に対する対象の反応理解と看護活動	健康段階と健康障害に応じた身体・心理・社会的特徴、全人的な苦痛を理解し、看護活動を説明できる。 健康段階と健康障害で生じる対象のアドバンスケアプランニングや悲嘆のケア(グリーフケア)について理解し、看護活動を説明できる。 健康段階と健康障害で生じる対象の望ましい生活を過ごすための意思決定支援の方法を理解し、看護活動を説明できる。 健康段階と健康障害で生じる対象が治療・診療・検査を受けた際の身体・精神・社会的反応を理解し、看護活動を説明できる。 健康障害の程度と段階に応じた主な治療・検査の適応と合併症、治療目標達成のための治療計画、療養環境の特徴を理解し、看護活動を説明できる。 健康障害の程度と段階に応じた治療・診療・検査を受ける人の反応を理解し、支援する看護活動を説明できる。 健康障害の程度と段階に応じた手術治療・保存的治療・放射線治療・薬物療法・食事療法・運動療法について基本的事項と対象の反応を理解し、看護活動を説明できる。 健康障害の程度と段階に応じた対象が受ける代替療法の基本的事項と対象の反応を理解し、看護活動を説明できる。



PS: 医療専門職としての問題解決のための専門知識 (Problem Solving)	健康障害の程度と段階に応じた看護実践	健康障害や治療・検査に対する看護活動	対象が受ける手術療法の術前・術中・術後管理を理解し、その看護活動を説明できる。 対象が受ける栄養療法において、栄養の種類と適応、禁忌、投与経路を理解し、看護活動を説明できる。 ライフサイクルに特徴づけられる栄養療法について理解し、看護活動を説明できる。 リハビリテーション治療の種類(運動療法、物理療法、作業療法、言語療法)を理解し、その看護活動を説明できる。 主な治療・診療・検査を理解し、回復過程および退院を見通した看護活動を説明できる。 主な治療・診療・検査を理解し、回復への意欲を支え、より主体的な回復過程を遂げるための看護活動を説明できる。
		健康障害に対する薬物療法	対象が受ける薬物療法の薬物動態、薬理作用・副作用・相互作用、安全管理、処方を理解し、看護活動を説明できる。 小児や高齢者などのライフサイクルに特徴づけられる薬物療法・アドヒアランスについて理解し、看護活動を説明できる。 小児期、周産期、老年期、臓器障害時、精神・心身の障害時における主要薬物の薬物動態を理解し、看護活動を説明できる。
		健康障害に対する放射線療法	放射線・放射線量の単位、放射線物質、原子核、原子の安定化(放射性壊変)、放射線物質(放射能)の量の単位(Bq)、放射線の自然と人工の区別、放射線加重係数、実効線量(シーベルト)、臓器・組織の放射線感受性、放射線量の単位(接頭語)、グレイからシーベルトへの換算について理解している。 放射線の自然と人工の区別、吸収線量(グレイ)、放射線によるエネルギー付与と放射線影響、吸収線量の問題点、放射線の種類による生物効果の大きさの違い、組織ごとの影響の受けやすさについて理解している。 放射線の発生源、自然放射線からの被曝、食品に含まれる放射線物質の量、体内の放射線物質、放射性物質の半減期について理解している。 放射線の分類、電磁波の波長の違い、放射線の実態、被曝の経路、外部被ばく・内部被ばく、透過力と人体での影響範囲について理解している。 エックス線発生時の仕組み、エックス線撮影室でのエックス線写真撮影の被ばく線量、エックス線撮影の散乱線(二次エックス線)について理解している。 放射線の作用、放射線のDNAへの影響、放射線による電離作用、人体への影響の発生機構、しきい線量、放射線による身体的影響、身体的影響の発生時期、ガンマ線による急性吸収線量のしきい値を理解している。 発がんの仕組み、細胞死・細胞変性、細胞の悪性突然変異、被ばく線量とがんの発生率(確率的影響)、放射線による遺伝的影響、主な組織反応のしきい線量を理解している。
		遺伝医療とゲノム医療	ゲノムと染色体と遺伝子、遺伝の基本的事項を理解している。 DNAの複製と修復、DNAからmRNAへの転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現および調節(セントラルドグマ)について基本的事項を理解している。 染色体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術について基本的事項を理解している。 個人の成長・既往歴と三世代の家族歴の情報を聴取し、血縁者の関係を明確にする家系図を作成・活用することができる。 利益相反や動物・遺伝子組み換え実験に関するルールの概要を説明し、遵守できる。 遺伝医療の関係機関・職種と連携する重要性を理解し、看護活動を説明できる。
		移植医療に対する看護実践	移植医療(臓器移植、組織移植、造血幹細胞移植など)、移植における免疫応答(拒絶反応、移植片対宿主病)、移植後の免疫抑制について理解している。
		免疫・アレルギーに対する看護実践	対象の免疫・アレルギー反応に関わる組織と細胞について基本的事項を理解し、看護活動を説明できる。 膠原病、血管炎、リウマチ性疾患、アレルギー性疾患、自己免疫疾患など全身に及ぶ生理的变化を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を理解している。 臓器移植を受ける人々への看護の概要を説明できる。
	体を守る仕組みと異常に対する看護実践	炎症に対する看護実践	対象におこる炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化の基本的事項を理解し、看護活動を説明できる。 炎症組織の治癒過程、炎症とメタボリックシンドローム、動脈硬化、腫瘍、老化へのかかわりについて理解している。
		障害に対する細胞・組織の反応に対する看護実践	対象の細胞の寿命、DNA 損傷・修復について基本的事項を理解し、看護活動を説明できる。 対象の組織の修復を促進・阻害する因子について理解し、看護活動を説明できる。
		腫瘍に対する看護実践	腫瘍性疾患発症の遺伝的素因・基礎疾患・感染症・環境生活習慣などのリスク因子、腫瘍の予防・検診について理解している。 腫瘍の生理的变化を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療、腫瘍のTNM分類、ステージを理解している。 腫瘍性疾患を持つ人々が直面する社会的・精神的な課題を理解し、看護活動を説明できる。 原発不明癌、転移性腫瘍、重複癌、AYA世代の腫瘍、希少がんの種類、症候、診断、治療について概要を説明できる。 腫瘍の主な疾患・病態について病因、症状・徴候、検査、治療法、健康段階を理解し、看護活動を説明できる。
		出血に対する看護実践	対象の止血と血液凝固・線溶系について基本的事項を理解し、看護活動を説明できる。 ショックの原因分類としての①血液分布異常性ショック(アナフィラキシー、敗血症性、神経原性)、②循環血液量減少性ショック(出血性、体液喪失)、③心原性ショック(心筋収縮力低下、弁疾患、不整脈)、④閉塞性ショック(心タンポナーデ、肺塞栓症、緊張性気胸)とそれぞれの病態および診断の要点について理解している。
		侵襲に対する看護実践	侵襲(手術、外傷、熱傷)で生じる生体反応を理解し、看護活動を説明できる。 熱傷の重症度を評価し(気道熱傷の有無、熱傷面積および深達度)、治療方針について理解し、看護活動を説明できる。 臓器不全(多臓器不全、サイトカインストーム、播種性血管内凝固症候群)について理解し、看護活動を説明できる。 食中毒、ガス中毒(一酸化炭素中毒、硫化水素、青酸ガス)、農薬(有機リン・有機塩素)、アルコール、薬物(睡眠薬・向精神薬・解熱鎮痛薬・麻薬・覚醒剤)による中毒の病因(発生機序)、症候、診断と治療について理解し、看護活動を説明できる。